

日露関係史料に関するシンポジウム報告

史料集『18～19世紀前半におけるロシア人 による太平洋探検』の編纂と日露関係史

タチアナ・S・ヒョードロヴァ

本稿は2001年3月8日に史料編纂所で開催した研究集会の報告である。報告者のヒョードロヴァ氏はロシア国立海軍文書館（サンクト・ペテルブルグ市）の副館長を長く務め、以下で紹介する史料集編纂に自ら携わった方である。史料集は現在第3巻（1815年まで）まで刊行され、日露関係を含むロシアの北太平洋「開発」に関する基本史料集となっている。今回は史料集の網文を翻訳して、報告のあとに附収した。併せて参照していただきたい。なお、ヒョードロヴァ報告の翻訳はサンクト・ペテルブルグ大学のワジム・クリモフ教授に、網文翻訳は東京大学大学院経済学研究科大学院生のロマン・ソポレフ氏に御願した。

（東アジアWG：保谷記）

17世紀半ばまでにロシア探検隊はオホーツク海沿岸に出た。1664年にはオホーツク要塞都市の礎を据え、カムチャツカについての情報が入るようになった。1701年にウラジミル・アトラソフはロパトカ岬（カムチャツカ南端）から南に延びる島々について情報を伝えた。はじめてクリル（千島）列島の情報が明らかになった。また、アトラソフ探検隊はカムチャツカの南東部海岸において嵐で難破した伝兵衛を助けた。アトラソフは1702年1月の「口述書」に「これまで日本領土からクリル列島とカムチャツカ地方にかけては誰もやってこなかった」と書いていた。おそらくカムチャツカには以前にも難破した日本人が現れていたのだが、ロシア人自身はそれがわからなかったのである。

立川伝兵衛はプレオブラジェンスコエ村（Преображенское）に連れてこられ、ピョートル一世は彼と会見した。1702年に、シベリア庁は国王の名において、クリル列島を経て日本への道を探したい人々をカムチャツカに派遣すべしと、ヤクーツク地方庁に指令した。

1711年にクリル列島の北の島々が発見され、コサックのコズイレフスキーは、調査と原住民からの情報に基づき、1713年に「マツマイ（北海道）までの全ての島々の地図」を作成したが、残念ながら今日には伝わっていない。

一方、ロシア北岸に沿ってアジア大陸北東部の周りを辿り、中国と日本に航海出来るという話がロシアではますます大きなものとなった。この考えはピョートル一世をも夢中にさせた。アルハンゲリスクから「北洋航路を通り、アムール川の河口に至り、次に日本と中国の間を」帆走する船数艘を派遣する、という造船技師サルティコフ（Ф.С.Салтыков）の提案は、このような計画の一つであった。

しかし、アジア大陸とアメリカ大陸の間の海峡の存在について信頼できる情報はなかった。ヤクーツクからポリシェレツク要塞（Большевецк、カムチャツカ西岸）までの陸路はとても長く困難なものだった。オホーツク要塞都市から海を渡りカムチャツカに到達する全ての試みは失敗に終わっていた。深い経験のある船乗り、造船関係者、適当な航海の道具がなかったからである。

1716年5月に至ってはじめて、アルハンゲリスク出身の数人が北洋の船形に従った、初めての海洋新造船を進水させた。この船の名前は「ヴォストーク号」であった。オホーツクからカムチャツカまでの海路を開発したのは、この船によってであった。1716年6月にソコロフ（К.Соколов）と航海士のトレスカ（Н.М.Треска）を長として27人からなる探検隊がカムチャツカへ向け出航し、1717年7月8日にオホーツクに戻った。

この頃からカムチャツカのみならず、クリル列島もさらに活発に開拓されるようになった。ロシア人の航海者は、クリル列島の彼方にある国家についてますます知るようになり、その国家に関する知識をより深め、その住民と友好・通商関係を樹立しようと努めた。

18～19世紀前半の日露関係発展の歴史に関しては少なからぬ論文と著作が書かれているが、こうした件に関する史料は一度も刊行されなかった。ロシア国立海軍文書館とロシア科学アカデミーによって刊行された『18～19世紀前半におけるロシア人による太平洋探検』という史料集叢書は、部分的にこの欠陥を補った。

史料集叢書の出版を思いついたのは1978年であり、18世紀始めから19世紀半ばまでの史料集を6冊出版する計画があった。そして最後の6冊目においてГ.И.ネヴェリスコイと、彼の「バイカル号」での航海、そしてサハリン島の記述を取り上げようと思った。

1984年、モスクワにある「ナウカ」出版社によって、『18世紀前半におけるロシア人の北部太平洋探検』と題し、史料集の1冊目が刊行された。この本には、ロシア人航海者が太平洋に出、太平洋の北方を開発し始めることを可能にしたところの、オホーツクからカムチャツカに至る海路の発見に関する史料が収められた。またB・ベーリングの第一次・第二次カムチャツカ探検隊に関する史料も収められた。

第一次カムチャツカ探検隊は周到な準備なしに組織された。そしてこの主な目標は、アジア大陸とアメリカ大陸は結ばれているか、あるいはその間に海峡があるかを調査することにあつた。

1726～1727年に、探検隊はオホーツクに到着し、1727年の秋にカムチャツカに渡った。カムチャツカにおいて「聖ガヴリイル号」が造られ、ベーリングは1728年にこの船で海峡への航海を行い、ニジネカムチャツク（カムチャツカ東岸）に戻り、そしてここから航海を開始した。次の年、「聖ガヴリイル号」は短い航海の後、カムチャツカのロパトカ岬を曲がり、クリル列島を通り過ぎ、ポリシェレツクに至り、その後オホーツクに到着した。

航海の準備とカムチャツカの冬を過ごした時に、ベーリングは北国の厳しい自然の知識を得たが、ポリシェレツク要塞に帰る時に、半島で日本人が見かけられたことを知り、アワーチンスク湾（Авачинск）にある小さな島に、本当に日本人が見かけられたことを証明する、いくつかの細い杖や紐、その他の物が発見された事を知った。恐らく、日本人はなんらかの災害の結果、半島に流されたのである。ベーリングは、彼らを見発すること命を命じた。ベーリングは、第一次カムチャツカ探検が終わってから、元老院の命令に従って「意見書」を提出した。そこでベーリングは日本人がカムチャツカに現れる機会があれば、彼らをロシア船で帰国させるべきだと提案

した。このようにして日本に至る海路を調べ、日本と貿易関係を結ぶことが出来るかどうか、調査して、「どのようにかして我が国に利益をもたらせる事」を明らかにしなければならない。なぜならば、カムチャツカの端から日本に至る間に島々が存在し、それぞれの間はそれほど隔たつてはいないのである、と彼は述べている⁽¹⁾。

この時からロシア政府の行動の明確な目的は、東洋の隣国との間に外交・通商・友好関係を樹立することとなった。ベーリング第二次カムチャツカ探検隊の組織化に対しての（その探検隊の使命の一つに日本への航海が定められた）、元老院布告・海軍省令・元老院訓示・海軍省指令がこの史料集に載せてある。同じ史料集にはM.П.シュバンベルグ探検隊の造船と日本への航海に関する海軍省令、1738～1739年の航海そのものに関する書類、両国の歴史では初めての1739年の本州へのロシア船の訪問と住民との出会いに関する文書、再度1742年に日本を訪れる試みに関する文書等が収められている。

1743年9月、第二次カムチャツカ探検隊は、エリザベータ・ペトローヴナ女帝の勅令によって中止されたが、この素晴らしい国へのロシア海軍の航海の記憶はずっと数十年間に亘って保ち続けられた。日本との外交関係樹立の問題がロシア対外政策の一番の緊急課題の一つになるほど、この出来事はロシアにとって重要なものであった。

『18世紀後半における北部太平洋を調査するロシア探検隊』という史料集叢書の2冊目の巻には、新しくロシア航海者が発見した地域と太平洋の島々の開発と記述、発見した地域と太平洋の島々の開発と記述、発見した土地をロシアのものとして揺るぎなきものとする事に関する史料が収められている。

この巻では、創設された100以上の私立商社によるアリューシャン列島や北アメリカ海岸への航海、さらに政府の5つの探検隊に主要な注意が払われている。同時に、ロシア航海者の対日通商関係樹立への試みに関する史料もこの巻に収められている。

1750年に、M.П.シュバンベルグの息子である技師・海軍准尉A.M.シュバンベルグは、海軍省に対し日本に新しい探検隊を派遣する案を提出したが、彼の提案はサンクト・ペテルブルグで支持されなかった。しかしカムチャツカ地方当局は、現物資税（ЯСАК）を徴収する事と、原住民をロシア国籍に編入させる事に関心があったので、クリル列島の調査は活発に行われた。また、日本との接触体制をつくる方法もたえず探求された。

1775年3月3日に、ポリシェレツク要塞官房令による探検隊が組織され、日本語を話せるシベリア貴族のИ.М.アンチーピンが探検隊長として任命された。「聖ニコライ号」で出発する前に、彼は指示を受けた。その指示によると、「日本人との協力体制と貿易の開始」は、探検隊の主要な課題の一つとされていた。日本人と出会った時には、ロシア商人は沢山の国と貿易しているが、「あなたがた、日本人とは何の面識もなく、今までに貿易はしていない、……もし我々から何か商品や物を得る関心があり、あなたがたが商品を売る関心があって、条約を締結するつもりがあれば、将来の条約締結の保証として、日本人から手書きの証明書を得る事になろう、」ということ日本人に説明しなければならない、というのである⁽²⁾。

1778年6月19日に、マツマイ島（北海道）の北東側沿岸の厚岸（Аккесси）という地で出会いが行われた。ロシア人はマツマイ島を、クリル列島の22番目のアトキス島（Аткис）であると言った。両国関係の樹立の可能性について真面目な交渉と、贈り物の交換と、ねんごろな送別の後

で、一年後に日本側の提案によりクリル列島20番目の国後島で会う約束をしてロシア人は出航した。

一年後、国後島に日本人は現れなかったが、商人のシャバーリン(Д.Я.Шабалин)を中心とする探検隊は再び厚岸に出発した。新しい交渉の結果、ロシア人の対日通商関係樹立の提案は、日本の神が「ロシア人と知り合いになること、貿易すること」を禁止するとの口実で断った。日本とこの時代の歴史と習慣を知らなかったロシア航海者及び商人は、双方に利益のある貿易を日本がなぜ固く断るのか理解し難かった。それでもロシアには対日通商関係樹立の希望が残った。日本の国益のためだからである。2冊目の本にはこの件に関する一連の文書が載せてある。ロシアはもう一度、善隣関係樹立を試みた。

1791年9月13日、エカテリーナ二世はイルクーツク総督ピーリ(И.А.Пиль)に日本へ派遣する探検隊を準備せよという勅令を下した。今回は、アカデミー会員キリル(エリク)・ラクスマン(К.Г.Лаксман)の息子であるアダム・ラクスマン陸軍中尉を中心とする探検隊が「聖エカテリーナ号」で出航した。船の航海長はワシーリイ・ロフツォフであった。これは日本に行った最初のロシアの使節団であった。航海の口実はアムチトカ島(о.Амчитка)(アリュシャン列島)で難破した「神鳥丸」の乗組員を帰国させることである。

両国間に通商関係を樹立するというA・ラクスマンの提案は日本代表によって拒否された。しかし日本代表は、船一隻が長崎港に入る許可書をラクスマンに渡した。後にこの許可書はロシア人に通商関係発展を求める権利を与えた。1794年2月И.А.ピーリ総督は日本へ新しい探検隊を派遣する必要性についてロシア政府に報告したが、彼のイニシアティブはエカテリーナ二世に支持されなかった。

次の対日通商関係樹立の試みは10年後に行われた。ロシアの「ネヴァ号」と「ナジェージダ号」は初めての世界一周航海に出航した。1804年から1815年までの日露関係発展の史料は叢書の3冊目の巻『露米会社と北太平洋の調査』(モスクワ、1994年)に集中して掲載されている。

侍従長Н.П.レザノフは対日使節団長に任命された。この使節団の課題は皇帝アレクサンドル一世の訓令によって決めてあった。しかしこの時の情勢は不利であり、使節団の任務ははじめてから失敗する運命にあった。「ナジェージダ号」は成果なく半年ほど長崎港にあり、レザノフはこの船に乗って1805年4月18日、ラベルーズ(宗谷)海峡に向かって出航した。日本側の拒否回答に侮辱を感じたレザノフは、自分の計画を実行するため本国政府には知らせないで、И.А.フヴォストフ中尉を「ユノナ号」の指揮官に、Г.И.ダヴィドフ海軍少尉を「アヴォシ号」の指揮官に任命し、彼らに秘密の訓示を出して、クリル列島とサハリン島に向け出航させた。この訓令によると、「アニワ湾内に行き、日本の船がいれば撃破する、健康で、働ける人を拉致する……、建物に放火する」というものであった⁽³⁾。訓令は極秘にしておいて、乗組員はみな探検隊の意図を洩らさない、という誓約書を書いた。この訓令は、船がオホーツクに到着してからばかりでなく、長いあいだ秘密にされていたが、ソ連外務省の許可によりこの史料集叢書にはじめて掲載された⁽⁴⁾。

訓令に従って1806～1807年、将校たちは海賊行動によってサハリン島のアニワ湾にある日本の集落を一掃し、択捉島と国後島の商品倉庫を一掃して、ウルップ島に滞在した。長い期間にわたり日露関係を困難なものとしたこの事件についての文書も、この史料集に掲載されている。

この本にはB.M.ゴロウニンの指揮のもとでの「ディアナ号」の世界一周についての史料も掲載されている。彼の任務の一つはクリル列島を測量することであった。1811年7月11日、クリル列島を測量していた時、「ディアナ号」の船長ゴロウニン、海軍少尉Φ.ムール(Мур)、航海士A.フレブニコフ(Хребников)、また4人の水兵が日本人の捕虜になった。これは1806～1807年のフヴォストフとダヴィドフの海賊的攻撃への報復であった。2年間に亘って捕虜たちとロシア政府、水兵たちは、ロシアがフヴォストフとダヴィドフの「海賊行動」とは関係なく、東の隣国にどのような敵意ももっていない、ということをも日本当局に納得させなければならなかった。ゴロウニンと彼の友人は解放されたが、日本は対露通商関係を樹立することを拒否した。対日外交・通商・友好関係樹立問題の決定は40年間先に延ばされた。現在、ロシア国立海軍文書館は史料集叢書「ロシア人の太平洋調査」の4冊目の刊行を準備している。時代は1816～1841年であるが、おそらく日露関係の史料は載らない。この時代に関する文書がなかったからである。

史料集叢書には6冊から成る予定であったが、長年にわたる作業の過程で変化が起り、現在5冊に限定するような提案がなされている。ロシア国立海軍文書館はロシア科学アカデミー外交政策部と共同して史料集の1冊目と2冊目を刊行した。それから、ロシア科学アカデミー付属世界史研究所と一緒に仕事をした。史料集刊行の準備はロシア科学アカデミー会員のA.Л.ナロツニツキーと、彼の死後は会員のH.H.ボルホヴィチノフによって行われた。

刊行準備の実際の仕事のために、普段は2、3人の文書館員から成る編集者グループが作られた。一人は編集長に任命された。史料集刊行の規則(モスクワ、1991年)により、グループは全ての必要な仕事を行い、グループの主要な創造活動原則は、綿密な本を作ること、責任を持って高いレベルの本を作ることである。

編集者(ヒョードロヴァ)のグループはこのテーマで発表された研究論文を調査し、文献目録を作成した。編集者は理想的に言えばこのテーマのすべての学問研究論文を知らなければならない。しかし残念なことに、ロシア語の文献は詳しく調査したが、外国語の研究論文の場合、英語文献の調査さえ困難であった。日本語は言うに及ばない。

次に編集者は文書館のフォンド数を調査しなければならなかったが、最初にわが文書館の必要なフォンド目録を準備しなければならなかった。次に他の文書館のフォンド目録と図書館写本部の史料目録を準備しなければならなかった。サンクト・ペテルブルグの文書館だけではなく、モスクワの文書館も含めた。他の文書館とは契約書が締結されなかったが、すべての文書館において編集者は自分自身で働いた。叢書のすべて3冊の史料を集めるために、ロシア国立海軍文書館(サンクト・ペテルブルグ、旧レニングラード)(РГАВМФ)のほかに、ロシア国立歴史文書館(РГИА)、ロシア科学アカデミー文書館サンクト・ペテルブルグ支部(С.-ПФ Архива РАН)、ロシア科学アカデミーに付属するロシア歴史研究所サンクト・ペテルブルグ支部(С.-ПФ ИРИ)、ロシア地理学協会文書館(Архива РГО)、ロシア科学アカデミーの図書館写本部とロシア国立図書館の写本部、モスクワではロシア帝国外交文書館(АВПРИ)、ロシア古代文書国立文書館(РГАДА)とロシア国立軍事史文書館(РГВИА、これは現在の文書館名だが、叢書に使用した文献リストは本を準備した当時のものを載せている)を利用した。この叢書を作るために全部で58のフォンドを調査したが、その内でロシア国立海軍文書館のフォンド数は26である。

文書館の史料の他に、刊行された史料、現在では稀覯本となったもの、地図帳や地図も使用さ

れた。研究テーマごとに、刊行された史料と研究論文のリストは叢所の各冊に添付された。

史料を見出す過程はいつもとても時間がかかり、とても困難であった。その上文書館は機器類の配備状況が決して良くなかったし、今も必要な機器がない。叢書が1冊目(1713~1743年)の調査を始めた時には、編集者は18世紀前半のテキスト読解の経験もなかったと言わねばならない。この活動のあり方は直接に文書の調査中に学ばなければならなかった。残念ながら客観的な理由により、ロシアの文書館だけで史料を探し、印刷史料もロシア語のものだけを調査したため、(その分だけ)学問的な価値は低下してしまった。それだけでなく、モスクワの文書館のフォンドを調査するために、しばしば長期出張の必要があったが、ロシア国立海軍文書館の予算にはそのような経済的な余裕がなかった。

文書を調査した時に、次第に沢山の史料を見つける事が出来たが、全てを刊行する事は出来なかった。出版の紙幅が限られていたからである。それゆえ、より重要な、客観的に出来事を反映する文書だけを出版した。以前(別の)叢書で刊行された文書も掲載された。特に発行部数がない出版物であれば、その本より、出来事の背景を客観的に理解するために必要な文書を掲載した。例を挙げると、皇帝・女帝の勅令と訓令、元老院の訓示、海軍省の命令が採録された。そのような文書がなければ叢書は十分ではなく、他の史料も理解し難くなったことであろう。

叢書のために選んだ文書を調査し、次に古文書学の作業を始めた。すなわち、表題を付し、必要があれば差出、宛先、日付などをより正確にした。文書のテキストを綿密に検証し、他の文書と比較し、文書が原本であるかを調べた。編集者はつねに文書の原本を探そうと努力した。原本がなければその場合のみ、署名のある写し、あるいは写しを採録した。

叢書を準備した時に、文書のテキストはそのまま書き直さずに活字化された。単語が正しく読めているか疑いがあれば、この単語を亀甲括弧に入れ、意味がさまざまに解釈しうるテキストの不正確な箇所はそのまま掲載した。これについては本文に対し脚注をつけた。各巻の前書きの部分である古文書学の序文には文書の古文書学的な成り立ちの全ての特徴が説明されている。各文書の末尾に、備考として所蔵機関、文書が原本であるかどうか、以前に刊行されていれば刊行物の必要なデータなどが記入された。

この本に採録されなかった史料は、文書の本文、出来事、名前、日付などを説明すること、より正確にすること、追記することのために使用された。本叢書の各巻に注釈が沢山あり、これらは叢書のテーマに関係する追加情報をもたらしてくれる。このような注釈はある意味で小さな研究成果である。編集者も文書の注釈を書いた。参考資料となった学術的刊行物は広範囲にわたり、すなわち人名索引、地名索引、船のリスト、用語の字引、使用された資料目録、研究論文のリストがある。

叢書の各巻は、巻の内容に関し、この問題に関する資料の主な点とその編纂の原則についての巻頭論文から始まる。この論文の著者は、巻の担当編集者と監修者、叢書の編集長であるロシア科学アカデミー会員A.JI・ナロツニツキーとH.H.ボルホヴィチノフである。史料集の作成にあたっては、何回もロシア歴史研究所(旧ソ連歴史研究所)、世界史研究所、ロシア国立海軍文書館との研究者会議の場で検討し、編集者は真摯な学問的労作の創造活動に大いに貢献した。

しかし、どんなに熱心に史料集叢書を作成するにしても、史料集にロシア語だけでなく、外国語の文書を入れられれば、ロシア海軍が日本を含め諸国を訪れた事についての文書だけでなく、

ロシア航海者との出会い、ロシア航海者に対する外国人の態度に関する外国の文書も入れることが出来れば、このような史料集叢書は真の学問的労作となることであろう。

編年叢書の第5巻（1842～1867）には、海軍将官プチャーチンの航海と、ついに樹立された日露外交関係に関する文書が収められようとしている。両国の歴史においておそらく一番重要な出来事に特別な注意を払い、ロシアの文書と日本の文書を同等に用いて、それぞれに史料集の刊行を準備することは、より正しいあり方であろう。

〔註〕

- (1) 『18世紀前半におけるロシア人の北部太平洋探検』（モスクワ、1984年）、96頁。
- (2) 『18世紀後半における北部太平洋を調査するロシア探検隊』（モスクワ、1989年）、150頁。
- (3) 『露米会社と北太平洋の調査 1799～1815』（モスクワ、1994年）、153頁。
- (4) 同上、151～4頁。

I

Русские экспедиции по изучению северной части Тихого океана в первой половине
XVIII в.

(I)

ロシア人航海者によるカムチャツカ、クリル諸島、アメリカ海岸への初航海
第一次カムチャツカ探検

史料番号	史料タイトル[副題]	番号・場所・年月日	典拠
I-1	ピョートル一世宛サルティコフ(Ф.С.Салтыков)造船技師書簡 [シベリアにある川の河口での造船、それらの太平洋への航海、新しい島々の発見、そして中国など様々な国との貿易に関する提案]	1713年4月24日	«Пропозиции Федора Салтыкова» 『フョードル・サルティコフの提案』、Санкт-Петербург、[1892年]、28-29頁
I-2	ピョートル一世宛サルティコフ書簡 [アルハンゲリスクから太平洋までの道を見つける必要性の件]	1714年	ЦГАДА, (中央国立古文書館) Ф.9, отд.II, кн.13, л.958-962. (原本) 出版: Павлов-Сильванский Н.П. Проекты реформ в записках современников Петра Великого. СПб., 1897, с.32-34, Русская тихоокеанская эпопея. Хабаровск, 1979, с.131-133.
I-3	役員のソコロフ(К.Соколов)、舵手のネヴェイツィン(Я.В.Невейцын)、(50人からなる部隊の)隊長のクリヴォノソフ(М.Кривоносов)宛、イルクーツク市長官エリチン(Я.А.Ельчин)大佐書簡 [カムチャツカまでの海路の探索、発見された陸地の地図作成に関する指令]	1714年7月3日	Памятники Сибирской истории XVIII в. СПб., 1885, кн.2, с.37-40. (『18世紀シベリア歴史に関する古文書』)
I-4	エリチン宛タタリノフ(П.Татаринов)大尉書簡 [タタリノフのアナドゥイル要塞(Анадырский острог)の番頭としての任命、カムチャツカの番頭達のオリュトル要塞(Ольоторский острог)への到着、1713年におけるコサックのコズイレフスキー(И.П.Козыревский)のクリル諸島への航海の件]	1714年10月13日	Памятники Сибирской истории XVIII в. СПб., 1885, кн.2, с.43-47. (『18世紀シベリア歴史に関する古文書』)
I-5	コサックのブイコフ(И.Быков)、クレスチャーニノフ(А.Крестьянинов)、アナバラ(С.Анабара)による、1713年におけるシャン	1714年10月20日	Памятники Сибирской истории XVIII в. СПб., 1885, кн.2, с.47-50

	タル諸島(Шантарских островов)の訪問についての供述		(『18世紀シベリア歴史に関する古文書』)
I-6	ピョートル一世宛エリチン報告 [1713年におけるコズイレフスキー兄弟(И.П. и П.П.Козыревские)とコサック団体のクリル諸島への航海に関するもの]	1715年3月15日以降* *日付は番頭のコレソフなどの殺人についてのタリノフによる報知による。 Сгибнев А.С. Исторический очерк главнейших событий в Камчатке. (『カムチャツカにおける主な出来事に関する歴史記述』) — Морской сборник, 1869, №3, с.93. を参照。	ЦГАДА, (中央国立古文書館) Ф.9, оtd.11, д.43, л.375-376. (写し)
I-7	エリチン宛シベリア県知事ガガーリン公(М.П.Гагарин)指令 [『大カムチャツカ探検』("Большой Камчатский наряд"—エリチン探検とも呼ばれる)の目的および構成に関するもの] (簡単な内容)	1716年7月12日	ЛОА АН СССР, (ソ連科学アカデミー文書館レニングラード支部) Ф.21, оп.4, д.34, л.304-308. (写し)
I-8	イルクーツク司令官リュバヴスキイ(Е.П.Любавский)隊長宛シベリア県知事ガガーリン公指令 [『大カムチャツカ探検』の探検団の募集においてエリチンに協力を要請する件]	1716年7月12日	Памятники Сибирской истории XVIII в. СПб., 1885, кн.2, с.109-110. (『18世紀シベリア歴史に関する古文書』)
I-9	ヤクーツク長官ラキーチン(И.В.Ракитин)宛エリチン探検団長書簡 [探検のために必要な物資の調達に関する件]	1717年9月6日 No.100	ЛОА АН СССР, Ф.21, оп.4, д.34, л.311об.-312. (写し)
I-10	海軍大臣アブラークシン(Ф.М.Апраксин)海軍大将宛、海軍アカデミー・航海学校総裁マトヴェエフ(А.А.Матвеев)書簡「シベリアにおける地形見取図の作成のために測地学者のルージン(Ф.Ф.Лужин)及びエヴレイノフ(И.М.Евреинов)の派遣の件」	1718年5月31日	中央国立海軍文書館 Ф.233. Оп.1. Д.162. Л.225. (原本)
I-11	ピョートル一世によるエヴレイノフとルージンに対する指令 [探検の目的に関するもの]	1719年1月2日	ПСЗРИ, т.V, №3266 (『ロシア帝国法令全集』)
I-12	ピョートル一世のシベリア県におけるすべての要塞司令官および統治者に対する命令 [探検におけるエヴレイノフとルージンに対する協力に関するもの]	1719年1月2日	ЛОА АН СССР, Ф.21, оп.4, д.33, л.182. (原本と相違ないことを証明された写し)

I-13	ヤクーツク長官イズマイロフ(М.П.Измайлов)親衛隊大尉宛エヴレイノフとルージンの報告 [命令の遂行完了およびペテルブルグへの早期帰国に関するもの]	1721年9月3日	ЛОА АН СССР, ф.21, оп.4, д.33, л.185. (写し) 出版: Памятники Сибирской истории XVIII в., кн.2, с.291-292.
I-14	ロシア皇室におけるフランス全権公使ジュ・デ・カムブレドン(Ж. де Кампредон)の報告 [太平洋までの海路探索を目的とする探検隊のオビ川河口からの出発に関するもの]	1721年12月	Сборник имп. Русского исторического о-ва. СПб., 1884, т.40, с.17-18.
I-15	エヴレイノフによって作成されたシベリアの諸都市および個別居住地点の経緯の目録(簡単な内容)	1722年11月30日	ЦГАДА, (中央国立古文書館) ф.9, отд.1, д.66, №21, л.2 (原本)
I-16	ピョートル一世による海軍省への命令 [第一次カムチャツカ探検の企画に関するもの]	1724年12月23日	中央国立海軍文書館 ф.223. Оп.1. Д.29. Л.110-111. (写し) 出版: Зап. Гидрографического департамента Морского министерства СПб., 1851, ч.1X, с.642-644; Golder F.A. Bering's voyages. New York, 1922, vol.1, p.7; Вахтин В. Русские труженики моря. СПб., 1890, с.96-97.
I-17	ヤクーツク長官官房宛コズイレフスキー報告 [カムチャツカ及びクリル諸島における仕事に関するもの]	1725年1月4日以前* No.74 *日付はベーリング宛シベリア県知事ドルゴルーコフ公書簡の内容による(ЦГАВМФ, ф.216, оп.1, д.87, л.57 об.-58)。	中央国立海軍文書館 ф.216. Оп.1. Д.87. Л.59-60. (受信書類簿)
I-18	ピョートル一世のベーリングに対する指令 [第一次カムチャツカ探検の目的に関するもの]	1725年1月6日	ПСЗРИ, т.VII, №4679. (『ロシア帝国法令全集』)
I-19	チリコフ(А.И.Чириков)下士官中尉の海軍中尉への昇進および彼の第一次カムチャツカ探検への任命に関する海軍省の決定書	1725年1月20日 No.404	中央国立海軍文書館 ф.212. Оп.7. Д.49. Л.199-200. (海軍省会議事記録) 出版: Материалы для истории русского флота. СПб., 1867, ч.IV, с.698.

I-20	シベリア県知事ドルゴルーコフ (М.В.Долгоруков)公宛セナット(元老院)指令 [ベーリング探検の協力に関するもの]* *発信書類簿には、No.9,1725年2月2日と記載。	1725年2月1日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.7об.-8. (受信書類簿 における写し)
I-21	ベーリング宛海軍省指令 [第一次カムチャツカ探検の企画に関するもの]	1725年2月3日* No.14 *日付は海軍省から元老院に渡された後の写しのものによる。 (ЦГАДА, Ф.248, д.666, л.2-3)	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.14-15. (受信書類簿) 出版: Экспедиция Беренга. М.1941, с.373-374.
I-22	ドルゴルーコフ宛アブラクシン書簡 [ベーリング探検に対する協力の件]	1725年2月4日	中央国立海軍文書館 Ф.223. Оп.1. Д.29. Л.113. (写し)
I-23	ルージン宛ベーリング書簡 [ルージンを探検参加者として採用の件]	1725年6月5日 No.30	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.88. Л.16. (発信書類簿)
I-24	トボリスク県官房宛ベーリング書簡 [探検の遅い進行の理由の件]	1725年8月10日 No.48	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.88. Л.21-22. (発信書類簿)
I-25	ベーリングの海軍省への報告 [探検団のエニセイスクからイリムスク(Илимск)までの進行に関するもの]	1725年10月3日 No.64	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.88. Л.26-27. (発信書類簿)
I-26	ベーリングの海軍省への報告からの抜粋 [トボリスクへの到着、探検団メンバーの体調、造船のための木材等の材料の調達などに関するもの]	1725年10月3日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.88. Л.27-37. (発信書類簿)
I-27	1720-1721年におけるカムチャツカおよびクリル諸島へのエヴレイノフとの探検についてのルージンの記述	1725年11月27日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.52об.-53. (受信書類簿)
I-28	ベーリングの海軍省へ報告 [探検団のイリムスク滞在、のちに控えるカムチャツカまでの難しい旅行の準備、月蝕の観察に関するもの(要約)]	1725年11月30日 No.89	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.88. Л.49-52. (発信書類簿)
I-29	ヤクーツク長官官房宛ベーリング報告 [オホタ川(р.Охота)までの一番有効なルート、造船のための木材、ポリシェレツク(Большерецкий)要塞からヴェルフネ・カムチャツク(Верхне-Камчатский)要塞までの距離、原住民から探検団のための食料として魚を入手できるかどうかなどに関する情報提供の依頼]	1725年12月1日 No.91	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.88. Л.53об.-54. (発信書類簿)
I-30	コズイレフスキーによって作成されたカムチャツカ半島および他の諸島の地図のテキスト	1726年6月2-6日	ЦГАДА, (中央国立古文書館) Ф.199, д.533, №8, л.6об.-11. (写し) 出版: Озрыско

			<i>И.И. Открытие Курильских островов. – Учен. зап. ЛГУ, 1953, № 157; Языки и история народностей Крайнего Севера СССР. Л., 1953, с.200-207; Русская тихоокеанская эпопея, с.447-456.</i>
I-31	ヤクーツク長官官房宛ベーリング報告 [探検団のヤクーツクからオホーツクまでの前進のためのガイドおよび馬の準備の件]	1726年6月16日 No.198	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.88. Л.87. (発信書類簿)
I-32	ベーリングの海軍省への報告 [探検団のヤクーツクからオホーツクまでの旅行に関するもの]	1726年8月1日 No.268	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.88. Л.103-104. (発信書類簿)
I-33	ベーリングの海軍省への報告 [オホーツクへの到着およびそこでのやむをえない越冬に関するもの]	1726年10月1日 No.295	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.88. Л.111об.-112. (発信書類簿)
I-34	元老院のエカテリーナー一世に対する報告 [新しい陸地および島々の探索のためにヤクーツクコサック隊長シェスタコフ (А.Ф.Шестаков)指導の下での探検を企画する件(要約)]	1727年1月18日	ЦГАДА, (中央国立古文書館) Ф.248, кн.666, л.6-16. (写し) 出版: <i>Русская тихоокеанская эпопея, с.134-140.</i>
I-35	ベーリング宛シュパンベルグ(М.П.Шпанберг)海軍中尉書簡 [ヤクーツクからオホーツクまでの道における苦しい条件の件]	1727年1月19日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.131об.-135. (受信書類簿)
I-36	最高秘密会議の元老院に対する命令 [シェスタコフが指導する探検隊の目的と人的構成に関するもの]	1727年3月23日	ПСЗРИ, т.VII, №5049. (『ロシア帝国法令全集』)
I-37	最高秘密会議の海軍省に対する命令 [新しい陸地の発見のためのシェスタコフを指導者とする探検隊の企画およびその探検隊のための測地学者、航海士、水兵の募集に関するもの]	1727年4月10日	中央国立海軍文書館 Ф.212. Оп.10. Д.8. Л.59-60. (原本と相違ないことを証明された写し)
I-38	アカデミー事務所の海軍省への報告 [測地学者のグワズヂョフ(М.С.Гвоздев)のシェスタコフ探検隊参加者としての採用に関するもの]	1727年4月21日	中央国立海軍文書館 Ф.212. Оп.10. Д.8. Л.66. (原本)
I-39	シェスタコフ探検隊に採用された水兵のリスト (給料や配布された工具も掲載)	1727年6月6日	中央国立海軍文書館 Ф.212. Оп.10. Д.8. Л.100. (写し)
I-40	シュパンベルグの意見書 [造船のためにオホーツクからカムチャツカまでの木材や他の材料の運送に関するもの]	1727年6月28日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.110. Л.39об. (発信書類簿)

I-41	ベーリング宛ブーチン(И.Бутин)とトレスカ(Н.М.Треска)による報告 [カムチャツカ海岸の付近における船の故障およびその修理に関するもの]	1727年6月23日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.204об.-205. (受信書類簿)
I-42	ポリシェレツク要塞の注文者エレメエフ(А.Ермеев)宛ベーリング書簡 [ポリシヤ川からカムチャツカ川河口までの探検隊の荷物を届ける一番有効なルートについての情報の要請]	1727年9月11日 No.484	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.110. Л.39об. (発信書類簿)
I-43	ベーリング宛エレメエフ返簡 [ポリシヤ川からカムチャツカ川河口までの移動の可能なルートと時間の件]	1727年9月13日 No.383	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.204об.-205. (受信書類簿)
I-44	シュバンベルグ宛ベーリング書簡 [フィストラヤ川(р.Быстрая)からニジニ・カムチャツキー要塞までの人材および物資の移動、造船、残りの探検隊の荷物の運送の件]	1727年9月18日 No.489	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.110. Л.40об.-41. (発信書類簿)
I-45	ベーリング宛ヴェルフネ・カムチャツキー要塞司令官チュプロフ(П.Чупров)の報告 [探検隊のための食料や材料などのヴェルフネ・カムチャツキー要塞への調達およびポリシェレツク要塞からの残りの荷物の運送の件]	1727年12月27日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.206об.-207. (受信書類簿)
I-46	ベーリングの海軍省への報告 [探検隊のカムチャツカへの到着、帆船の造船、航海の準備に関するもの]	1728年5月11日 No.548	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.110. Л.51. (発信書類簿)
I-47	第一次カムチャツカ探検隊指導部の決定 [カムチャツカから出航する前に、検討された組織問題に関するもの]	1728年6月5日 No.458	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.225. (受信書類簿)
I-48	ベーリングの海軍省への報告 [帆船「聖ガヴリイル号」の造船の進み具合および探検隊の航海のための準備に関するもの]	1728年7月10日 No.578	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.110. Л.58. (発信書類簿)
I-49	ベーリングのカムチャツカの諸要塞司令官に対する書簡 [原住民に対する不平等な扱いの不適切性を訴えるもの]	1728年7月11日 No.579	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.110. Л.60. (発信書類簿) 出版(抄)： Колониальная политика России на Камчатке и Чукотке в XVIII веке. Л., 1935, с.47.
I-50	帆船「聖ガヴリイル号」の航海日誌からの抜粋 [アジア大陸とアメリカ大陸との間における航海に関するもの]	1728年8月5～20日	中央国立海軍文書館 Ф.913. Оп.1. Д.2. Л.48об.-52. (原本) 出版(抄)： Вахтин В. Русские

			<i>трусеники моря,</i> <i>с.56-59.</i>
I-51	ベーリング、シュパンベルグ、チリコフ (А.И.Чириков)とチュコート半島原住民との会 話の記録 [チュコート半島の地理的な位置と自然条件に 関するもの]	1728年8月8日 No.468	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.227. (受信書類簿) 出版: <i>Русская тихоокеанская</i> <i>эпопея, с.147-148.</i>
I-52	ベーリング宛チリコフ書簡(意見書) [帆船「聖ガヴリイル号」によるコレイマ川河 口までの航海継続の必要性の件]	1728年8月13日 No.469	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.227об. (受信書類簿) 出版: <i>Русская</i> <i>тихоокеанская эпопея,</i> <i>с.148.</i>
I-53	ベーリング宛シュパンベルグ書簡(意見書) [帆船「聖ガヴリイル号」を越冬の為カムチャ ツカへ帰還させる合理性の件]	1728年8月14日 No.470	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.227об.-228. (受信書 類簿) 出版: <i>Русская</i> <i>тихоокеанская эпопея,</i> <i>с.148-149.</i>
I-54	探検隊のカムチャツカへの帰還に関するベー リングの決定	1728年8月15日 No.471	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.228. (受信書類簿)
I-55	ベーリング、シュパンベルグ、チリコフとチュ コート半島原住民との会話の記録 [チュコート半島の地理的な位置と自然条件に 関するもの]	1728年8月20日 No.468	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.228. (受信書類簿) 出版: <i>Русская тихоокеанская</i> <i>эпопея, с.149-150.</i>
I-56	海軍省のベーリングへの指令 [カムチャツカの海図および詳細な地図の作成 に関するもの]	1729年12月2日* *ベーリング探検 隊書類簿には 1730年1月20日、 No.572と記載さ れている。	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.87. Л.282. (受信書類簿)
I-57	ベーリングの海軍省への報告 [1728-1729年における航海およびカムチャツカ からイリムスタまでの帰途に関するもの]	1730年3月10日* No.684 *出版物に1730年 2月10日と記載さ れているが間違い (<i>Андреев А.И.</i> <i>Экспедиция</i> <i>В. Беринга. – Изв.</i> <i>ВГО, 1943, т.75,</i> <i>вып.2, с.9-11;</i> <i>Греков В.И.</i>	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.110. Л.98-100. (発信書類簿)

		<i>Очерки истории..., с.38)</i>	
I-58	アンナ女帝へのベーリングの報告 [第一次カムチャツカ探検の結果に関するもの(要約)]	1730年3月10日 以降* *日付はI-57によるもの。	ЦГВИА (中央国立軍事史文書館), Ф.ВУА, д.23471, л.1-19. 出版: <i>Экспедиция Беринга, с.59-69.</i>
I-59	海軍省宛ベーリング書簡 [第一次カムチャツカ探検参加者への表彰授与の推薦]	1730年3月12日* No.685	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.110. Л.104об.-106. (発信書類簿)
I-60	航海士ゲンス(Я.Генс)宛シестаコフ書簡 [帆船「聖ガヴリイル号」のゲンスへの委譲および帆船の航海準備の件]	1730年9月9日 No.186	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.3. Л.168-170. (原本と相違ないことを証明された写し) 出版(抄): <i>Экспедиция Беринга, с.74.</i>
I-61	パヴルーツキー(Д.И.Павлуцкий)大佐によるゲンスと副航海士フョードロフ(И.Федоров)への命令 [乗組員の募集および「聖ガヴリイル号」のアナドゥイル川(р.Анадырь)河口への出航に関するもの]	1730年10月9日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.3. Л.63-64. (原本) 出版(抄): <i>Экспедиция Беринга, с.74-75.</i>
I-62	ゲンスによって帆船「東ガヴリイル号」に募集され、現在ポリシェレツク要塞にいる水兵および他の乗組員のリスト	1730年11月12日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.5. Л.113. (原本)
I-63	ゲンス宛フョードロフ報告 [帆船「東ガヴリイル号」のオホーツクからカムチャツカまでの航海およびカムチャツカ海岸付近における帆船の事故(沈没)の件]	1730年11月30日 No.170	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.3. Л.129-130. (原本)
I-64	ベーリングの元老院への提案 [第一次カムチャツカ探検隊の活動の関連におけるシベリア及びカムチャツカの住民の生活条件の整備に関するもの]	1730年12月4日 以降* *日付は内容による。	ЦГИА (中央国立歴史文書館), Ф.1329, оп.1. д.35, л.283-288. (原本) 出版: <i>Зап. Гидрографического департамента Морского министерства СПб., 1851, ч. IX, С.427-435.</i>
I-65	将来におけるカムチャツカから東への探検隊派遣に関するベーリング意見書	1730年12月4日 以降 *日付はI-64による。	ЦГИА (中央国立歴史文書館), Ф.1329, оп.1. д.35, л.289-291. (原本) 出版: <i>Зап. Гидрографического департамента</i>

			<i>Морского министерства СПб., 1851, ч. IX, С.435-436.</i>
I-66	ニジニ・カムチャツキー要塞ヤサク（現物税） 徴収所長クルイコフ(И.Крыков)宛ゲンス書簡 [アナドゥイル川河口へ出航する探検隊への食 料供給の件]	1731年7月12日 No.272	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.4. Л.81. (写し)
I-67	オホーツク港長スコルニャコフ・ピサレフ (Г.Г.Скорняков-Писарев)への元老院指令 [オホーツクへの農民移住、オホーツクにおけ る農業発展および岸壁と造船所の建設、極東に おける造船、様々な事業、商業などの発展、ク リル諸島そして他の島の調査に関するもの]	1731年7月30日	<i>ПСЗРИ, т.VIII, №5813. (『ロシア帝国法令全 集』) 出版(抄)： Русская тихоокеанская эпопея, с.160-164.</i>
I-68	ゲンス宛フォードロフ書簡 [食料不足およびカムチャツカ川において「聖 ガヴリイル号」がさらされた困難な条件の件]	1731年9月29日 No.124	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.3. Л.54. (原本)
I-69	ヤサク（現物税）徴収所宛ハルギン(Харугин) 書簡 [ゲンス探検隊参加者によるヤサク（現物税） 徴収の依頼]	1732年1月14日 No.324	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.4. Л.150. (原本)
I-70	バヴルーツキーのゲンスへの命令(抜粋) [探検隊指導権のグワスジョーフ(М.С.Гвоздев) への移管および帆船「聖ガヴリイル号」の航海 準備に関するもの]	1732年2月11日 No.150	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.3. Л.91. (原本)
I-71	兵士ズミエフ(А.Змиев)のゲンスへの報告 [原住民からのヤサク（現物税）徴収の件]	1732年2月26日 No.306	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.4. Л.127- 128. (原本)
I-72	ゲンス宛グワスジョーフ書簡 [帆船「聖ガヴリイル号」における探検隊指導 権のグワスジョーフへの移管]	1732年5月1日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.5. Л.126- 127. (原本)
I-73	ゲンス宛グワスジョーフ書簡 [帆船「聖ガヴリイル号」とその乗組員の管理 権のゲンスへの移管および帆船のオホーツクま での航海準備の件]	1732年5月22日 No.90	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.3. Л.15. (原本)
I-74	ゲンスの役員のコロアズニコフ (И.Колодезников)およびラザレフ(Лазарев) に対する指令 [クリル諸島におけるヤサク（現物税）の徴収 方法に関するもの]	1734年4月4日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.3. Л.16. (写し)
I-75	グワスジョーフのシベリア県官房への報告 [極東における活動に関するもの]	1738年6月13日 日付は内容によ る。	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.24. Л.587. (原本と相違ないことを 証明された写し) 出版：Дивин В.А. К берегам Америки. М., 1956, с.45-46.

I-76	シュパンベルグ宛オホーツク港事務所書簡 [1732年におけるグワスチョーフとフョードロフの(帆船「聖ガヴリイル号」での)アメリカ海岸への航海の件]	1743年4月20日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.53. Л.722-732. (原本) 出版: Ефимов А.В. Из истории русских экспедиций на Тихом океане (первая половина XVIII века). М., 1948, с.236-243. .
------	--	------------	--

(II)
第二次カムチャツカ探検

史料番号	史料タイトル[副題]	番号・場所・年月日	典拠
I-77	アンナ女帝の元老院に対する命令 [ベーリングの第二次カムチャツカ探検への派遣に関するもの]	1732年4月17日	ПСЗРИ, т.VIII, № 6023. (『ロシア帝国法令全集』)
I-78	元老院の海軍省への命令 [ベーリングの提案の承認およびカムチャツカとオホーツクにおける生活条件整備に関するもの(要約)]	1732年5月2日	ПСЗРИ, т.VIII, № 6041. (『ロシア帝国法令全集』)
I-79	元老院の海軍省への命令 [新しい陸地の探検およびその住民との商業関係樹立を目的とするベーリングのカムチャツカへの派遣に関するもの(要約)]	1732年5月2日	ПСЗРИ, т.VIII, № 6042. (『ロシア帝国法令全集』) 出版: Ефимов А.В. Из истории русских экспедиций на Тихом океане (первая половина XVIII века). М., 1948, с.234-235.
I-80	元老院の海軍省への命令からの抜粋 [第二次カムチャツカ探検隊の参加者募集と装備に関するもの]	1732年5月15日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.1. Л.4. (写し) 出版: Материалы для истории русского флота. СПб., 1879, ч.VII, с.299-300.
I-81	元老院の海軍省への命令からの抜粋 [第二次カムチャツカ探検の準備に関するもの(要約)]	1732年9月12日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.1. Л.68-69. (原本)
I-82	アンナ女帝宛海軍総検査官ゴロヴィン (Н.Ф.Головин)海軍中將書簡 [将来のロシア海軍の発展およびベーリング探検への協力の件]	1732年10月12日	ЦГАДА, (中央国立古文書館) Ф.24, оп.1, д.8, л.1-8. (原本)
I-83	ロシア海軍艦隊司令官の意見書 [第二次カムチャツカ探検の海路進行の合理性に関するもの(要約)]	1732年10月16日 日付は艦隊指令軍意見書の元老院への提出日付によるもの。	ЦГАДА, (中央国立古文書館) Ф.248, кн.1089, л.548-552. (写し) 出版: Русская тихоокеанская эпопея. Хабаровск, 1979, с.534-552.

I-84	第二次カムチャツカ探検の諸目的に関する海軍省意見書(要約)	1732年10月16日	ЦГАДА, (中央国立古文書館) Ф.248, кн.666, л.105-109, 151-153. (原本) 出版: <i>Русская тихоокеанская эпопея, с.169-171.</i>
I-85	海軍省のベーリングとチリコフに対する指令 [船の建造およびアメリカ海岸への航海に関するもの(要約)]	1732年10月16日	ЦГАДА, (中央国立古文書館) Ф.248, кн.666, л.113-114. (写し) 出版: <i>Русская тихоокеанская эпопея, с.172-173.</i>
I-86	科学アカデミー教授らによって作成された指示書からの抜粋 [第二次カムチャツカ探検にあたり天文学的、地理的、物理学的な観察方法に関するもの]	1732年11月28日* 日付は元老院への指示書提出に関する報告日付による。(ЦГАДА, Ф.248, кн.666, л.177を参照。)	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.27. Л.46, 53-61, 66-67. (原本と相違ないことを証明された写し)
I-87	元老院のベーリングに対する指令 [第二次カムチャツカ探検の企画と目的に関するもの]	1732年12月28日	ПСЗРИ, т.VIII, № 6291. (『ロシア帝国法令全集』)
I-88	造船所・建設の陸軍主計事務所宛海軍省指令 [ベーリング探検隊の参加者募集に関するもの]	1733年1月12日 No.622	中央国立海軍文書館 Ф.138. Оп.1. Д.22. Л.1 (原本)
I-89	アンナ女帝宛海軍省書簡 [ベーリングへのサウトベナフト号(Шаутбенафт)の授与および彼の昇給の依頼]	1733年1月26日 No.49	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.1. Л.622. (写し)
I-90	海軍省へのベーリングの報告 [第二次カムチャツカ探検のための将校任命に関するもの]	1733年1月 No.21	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.1. Л.250. (原本)
I-91	海軍省宛シュパンベルグ海軍大佐書簡 [第二次カムチャツカ探検の装備と食料調達のために彼のシベリアへの派遣の件]	1733年2月6日 No.33	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.1. Л.449-450. (原本)
I-92	海軍省宛チリコフ海軍大佐報告 [第二次カムチャツカ探検の企画に関する提案]	1733年2月12日 No.50	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.1. Л.637-640. (原本) 出版: <i>Экспедиция Беринга, М., 1941, с.205-208;</i> <i>Русская тихоокеанская эпопея, с.177-179.</i>
I-93	元老院のシベリア行政機関に対する命令 [第二次カムチャツカ探検に協力を求める]	1733年2月15日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.1. Л.472-473. (写し) 出版: <i>Экспедиция Беринга, с.208-209.</i>

I-94	元老院宛海軍省書簡 [ベーリングとチリコフが渡された指令書(指示書)の変更必要性の件(要約)]	1733年2月16日	ЦГАДА, (中央国立古文書館) Ф.248, кн.666, л.400-401. (原本) 出版: Русская тихоокеанская эпопея, с.179-181.
I-95	ベーリング宛海軍省指示書 [第二次カムチャツカ探検の準備、オホーツクとカムチャツカにおける造船、アメリカ海岸調査、日本までの海路の探索に関するもの]	1733年2月28日* *日付は1741年4月18日に作成されたアンナ女帝へのベーリング報告によるもの。 (Экспедиция Беринга, с.123-195を参照)	ЦГАДА, (中央国立古文書館) Ф.248, кн.666, л.404-409. (写し)
I-96	シュバンベルグ宛海軍省指示書 [第二次カムチャツカ探検のための造船および日本の調査に関するもの]	1733年2月28日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.27. Л.21-30. (原本) 出版: Экспедиция Беринга, с.173-186.
I-97	ベーリング宛元老院指示書 [モスクワからオホーツク間における郵便通信の整備、食料の運送、発見された陸地の住民へのロシア国籍付与に関するもの]	1733年2月28日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.27. Л.8-17. (原本と相違ないことを証明された写し) 出版: Экспедиция Беринга, с.126-150.
I-98	キリーロフ(И.К.Кирилов)元老院書記官長報告書からの抜粋 [第二次カムチャツカ探検の目的と意義に関するもの]	1733年3月16日以降* *海軍省宛元老院の指示書の作成日付によるもの。	ЦГАДА, (中央国立古文書館) Ф.199, д.512, №1, л.1-4. (写し) 出版: Андреев А.И. Экспедиции В.Беринга - Изв. ВГО, 1943, т.75, вып.2, с.35-36.
I-99	ミレル(Г.Ф.Миллер)教授宛科学アカデミー指示書 [シベリアとカムチャツカにおける諸民族の生活の記述に関するもの]	1733年4月5日* 科学アカデミー会議における指示書の承認の日付。	Миллер Г.Ф., История Сибири. (『シベリアの歴史』) М.; Л., 1937, т.1, с.460-461.
I-100	アンナ女帝への元老院の報告 [科学アカデミー教授の第二次カムチャツカ探検への派遣および科学アカデミー学生の給与に関するもの]	1733年5月4日	ЦГАДА, (中央国立古文書館) Ф.248, кн.2051, л.50-51. (原本と相違ないことを証明された写し)
I-101	シュバンベルグ宛ベーリング書簡 [造船のための木材の準備、オホタ川(р.Охота)、ウラク川(р.Урак)、イナ川(р.Ина)における水路測量の件]	1735年7月19日 No.588	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.8. Л.83-84. (原本)

I-102	ワリトン(В.Вальтон)海軍中尉宛シュパンベルグ指示書 [ウラク川を下って探検隊の食料および道具を運ぶことに関するもの]	1736年2月4日 No.14	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.92. Л.9-11. (発信書類簿)
I-103	シュパンベルグ宛ベーリング書簡 [水夫のトレスカとブーチンのオホーツク統治所の役員としての採用、そしてカムチャツカでの彼らの職務期間における俸給支払いの件]	1736年7月29日 No.930	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.19. Л.12-13. (原本)
I-104	シュパンベルグ宛ベーリング書簡 [ブリガンディン船「アルハンゲル・ミハイル号」と3本マスト船「ナジェージダ号」の内装作業のための労働者チームの派遣依頼]	1737年3月9日 No.120	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.8. Л.87. (原本)
I-105	副最高文官オステルマン(А.И.Остерман)伯爵宛ベーリング書簡 [探検の隊進行の遅さの理由の説明(要約)]	1737年6月12日	ЦГАДА (中央国立古文書館) Ф.248, кн.1089, л.803-813. (原本) 出版: Русская тихоокеанская эпопея, с.179-181.
I-106	海軍省宛シュパンベルグ報告 [造船および探検隊のカムチャツカへの出発の準備完了に関するもの(要約)]	1738年1月5日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.24. Л.987-988. (原本) 出版: Русская тихоокеанская эпопея, с.188-190.
I-107	ベーリング宛シュパンベルグ書簡 [探検者ガルデボリ(С.Гардеболь)とその助手カールーギン(А.Калугин)の探検隊参加者としての採用の件]	1738年3月27日 No.61	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.96. Л.101об. (発信書類簿)
I-108	海軍省宛シュパンベルグ報告 [探検隊のカムチャツカおよび日本への出航の準備完了に関するもの]	1738年6月16日 No.138	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.96. Л.143об.-144. (発信書類簿)
I-109	ゴロヴィン宛ベーリング書簡 [第二次カムチャツカ探検における仕事の進み具合の遅さの件(要約)]	1738年6月30日	中央国立海軍文書館 Ф.230. Оп.1. Д.30. Л.8-13. (原本) 出版: Экспедиция Беринга, с.304-308.
I-110	海軍省宛シュパンベルグ報告 [第一回目のクリル諸島への航海に関するもの]	1738年9月1日 No.195	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.96. Л.166-168. (発信書類簿)
I-111	元老院への海軍省報告 [第二次カムチャツカ探検隊の活動に関するもの]	1738年10月5日	中央国立海軍文書館 Ф.230. Оп.1. Д.24. Л.1053-1086. (写し) 出版: Экспедиция Беринга, с.85-120.

I-112	海軍省宛シュパンベルグ報告 [ポリシェレツクからオホーツクまでの移動の途中で生じた「聖ガヴリイル号」の事故および日本への新しい探検の準備に関するもの]	1738年12月1日 No.234	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.96. Л.209. (発信書類簿)
I-113	シュパンベルグ(А.М.Шпанберг)宛シュパンベルグ(М.П.Шпанберг)指示書 [アワーチンスク湾(Авачинская бухта)の海図作成に関するもの]	1739年3月20日 No.84	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.98. Л.22об.-23. (発信書類簿)
I-114	シュパンベルグのワリトンに対する命令 [クリル諸島の住民のための土産を「ナジェーダ号」に引き渡す要請]	1739年5月16日 No.149	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.98. Л.41. (発信書類簿)
I-115	シュパンベルグ宛ペトロフ(М.Петров)航海士報告 [色丹島の調査に関するもの]	1739年7月16日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.35. Л.398-399. (原本)
I-116	ブリガンティン船「アルハンゲル・ミハイル号」の航海日誌からの抜粋 [日本への航海に関するもの]	1739年5月22日－ 8月13日	中央国立海軍文書館 Ф.913. Оп.1. Д.38. Л.31об.-134. (原本と相違ないことを証明された写し)
I-117	ベーリング宛ワリトン書簡 [「聖ガヴリイル号」による日本への航海に関する報告および「聖ガヴリイル号」と「ポリシェレツク号」の乗組員リスト]* *1739年9月1日付けのシュパンベルグ宛ワリトン報告の原本(中央国立海軍文書館Ф.212. Оп.11. Д.782. Л.366-371.を参照。)	1739年8月25日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.44. Л.136-141. (原本と相違ないことを証明された写し)
I-118	ベーリング宛シュパンベルグ報告 [日本への航海に関するもの]	1739年9月8日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.44. Л.150. (原本)
I-119	海軍省宛ベーリング報告 [ポリシャヤ川(р.Большая)からアワーチンスク湾までのカムチャツカ沿岸海図作成のためエラギン(И.Елагин)航海士を(「聖ガヴリイル号」で)派遣することに関するもの]	1739年10月10日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.43. Л.172-174. (原本)
I-120	海軍省宛シュパンベルグ報告 [シュパンベルグ探検隊の人数と人的構成に関するもの]	1739年11月15日 No.220	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.43. Л.176-181. (原本)
I-121	海軍省宛シュパンベルグ報告からの抜粋 [1739年における日本への航海に関するもの]	1739年11月19日 No.233	中央国立海軍文書館 Ф.212. Оп.11. Д.782. Л.352-365. (原本) 出版: Русские открытия в Тихом океане и Северной Америке в XVIII в. М., 1948, с.80-97.

I-122	アンナ女帝のシュパンベルグへの命令 [報告および探検地図の提出の為シュパンベルグの早急なサントペテルブルグへの到来を要請するもの]	1740年1月24日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.58. Л.7. (原本)
I-123	ゴロヴィン提督宛チリコフ書簡 [1740年の夏、「アルハンゲル・ミハイル号」によるアメリカ北部海岸調査の可能性の件]	1740年4月17日	中央国立海軍文書館 Ф.230. Оп.1. Д.30. Л.109, 114. (原本) 出版: Экспедиция Беринга, с.324-325.
I-124	海軍省のシュパンベルグに対する命令および指示書の案文 [クリル諸島調査の継続および日本との貿易関係樹立に関するもの]	1740年4月以前* *ボルインスキー (А.П.Вольнский) とソイモノフ (Ф.И.Соймонов) の解任による。	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.44. Л.109-123. (写し) 出版 (部分的): Экспедиция Беринга, с.260-267; Русские открытия в Тихом океане и Северной Америке в XVIII в., с.97- 101.
I-125	ベーリング宛シェリチング(А.Е.Шельтинг)航海士報告 [1739年の「ナジェージダ号」による日本への航海に関するもの]	1740年7月18日 No.2	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.43. Л.166-170. (原本)
I-126	トルブギン(Г.Толбугин)海軍中尉宛イルクーツク官房書簡 [第二次カムチャツカ探検の活動を確保するための措置の件 (要約)]	1740年10月9日	Экспедиция Беринга, с.242-246.
I-127	ワリトンのグワスチョフ(Н.С.Гвоздев)への指示書 [ウリヤ川(р.Улья)までのオホーツク海の海図作成に関するもの]	1740年11月8日* *日付は、この指示書が添付されたオホーツク港官房宛ワリトン書簡(No.34)によるもの。	中央国立海軍文書館 Ф.212. Оп.6. Д.62. Л.65-66. (原本と相違ないことを証明された写し)
I-128	デリリ・デ・ラ・クロイエル(Л.Делиль де ла Кройер, Delisle de la Croyère)教授宛ベーリング書簡 [アメリカ海岸への航海準備のために教授がボリシェツクからアワーチンスク港に来る必要性の件]	1741年3月20日	ЛОА АН СССР, Ф.21, оп.5, д.133, л.13. (原本)
I-129	シュパンベルグ宛ワリトン報告 [ウリヤ川の水路図作成に関するもの]	1741年4月7日 No.105	中央国立海軍文書館 Ф.212. Оп.6. Д.62. Л.212-213. (原本)
I-130	シュパンベルグ宛ベーリング書簡 [オホーツク海の海図を作成するグループの準備]	1741年4月15日	中央国立海軍文書館 Ф.212. Оп.6. Д.62. Л.142-143. (原本)
I-131	アンナ女帝へのベーリング報告 [第二次カムチャツカ探検の活動に関するもの (要約)]	1741年4月18日	Экспедиция Беринга, с.123-195.

I-132	オステルマン宛ベーリング書簡 [オホーツクからベトロパーヴロフスク港への移動およびカムチャツカ改善措置の必要性の件]	1741年4月20日* *日付は書類の注記によるもの。	АВПР. (ロシア外交文書館) <i>Ф.Сибирские дела, 1741 г., д.1, л.4-11</i> (ドイツ語からの翻訳) 出版: <i>Экспедиция Беринга, с.329-332.</i>
I-133	元老院へのベーリング報告 [航海士のエラーギンとフメテフスキー (В.А.Хметевский)によるカムチャツカ沿岸の海図作成およびアワチンスク湾における港の建設着手に関するもの]	1741年4月22日 No.279	中央国立海軍文書館 <i>Ф.216. Оп.1. Д.51. Л.335-336.</i> (原本) 出版: <i>Экспедиция Беринга, с.254-255.</i>
I-134	アメリカ北西海岸への進路に関する「聖ピョートル号」と「聖パーヴェル号」の将校の決定	1741年5月4日	<i>Рукописный отдел АН СССР</i> (科学アカデミー写本部), <i>32.15.19. л.24об.-25.</i> (写し)
I-135	デリリ・デ・ラ・クロイエル宛ベーリング書簡 [ヤクーツク、ポリシェレツク、アワチンスク入江の地理的位置の確定の件]	1741年5月19日	<i>ЛОА АН СССР, Ф.21, оп.5, д.133, л.16.</i> (原本)
I-136	海軍省へのベーリング報告 [探検隊によるアメリカ北西海岸への航海の準備完了に関するもの (要約)]	1741年5月29日	中央国立海軍文書館 <i>Ф.216. Оп.1. Д.51. Л.1.</i> (原本) 出版: <i>Экспедиция Беринга, с.255-256.</i>
I-137	シュパンベルグ宛ベーリング書簡 [イニャ川(р.Иня)の水路図作成のためにルチシェフ(В.Ргичев)航海士の派遣の件]	1741年6月3日	中央国立海軍文書館 <i>Ф.212. Оп.6. Д.62. Л.120.</i> (原本)
I-138	チリコフのサヴェリエフ(С.Савельев)甲板長に対する命令 [アメリカ海岸調査のために派遣された船の探索のためボートの装備と水兵グループの準備の要請] * * I-142を参照。	1741年7月23日	中央国立海軍文書館 <i>Ф.216. Оп.1. Д.44. Л.25.</i> (原本) 出版: <i>Golder F.A., Bering's voyages. N.Y.1922, vol.1, p.323-324.</i>
I-139	探検隊のカムチャツカへの帰還に関する「聖パーヴェル号」の将校の報告	1741年7月26日	中央国立海軍文書館 <i>Ф.216. Оп.1. Д.44. Л.26.</i> (原本と相違ないことを証明された写し) 出版: <i>Golder F.A., Bering's voyages, vol.1, p.324.</i>
I-140	シュパンベルグのシェリチングへの指示書 [オホーツク海海岸および諸島の海図作成に関するもの]	1741年8月30日	中央国立海軍文書館 <i>Ф.216. Оп.1. Д.114. Л.583-585.</i> (写し)
I-141	シュパンベルグ宛シェリチング報告からの抜粋 [オホーツクからシャンタル諸島までのオホーツク海海岸の海図作成に関するもの]	1741年11月28日	中央国立海軍文書館 <i>Ф.216. Оп.1. Д.114. Л.585-587.</i> (写し)

I-142	海軍省宛チリコフ報告 [アメリカ海岸への航海に関するもの]	1741年12月7日 No.302	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.44. Л.5-14. (原本) 出版: <i>Экспедиция Беринга, с.273-285; Golder F.A., Bering's voyages, vol.1, p.312-323.</i>
I-143	1741年7月においてアメリカ海岸で行方不明になった「聖パーヴェル号」乗組員の名簿	1741年12月7日* *日付はI-142によるもの。	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.44. Л.29. (原本)
I-144	当時探検中の「聖ピョートル号」乗組員の名簿	1741年12月7日* *日付はI-142によるもの。	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.44. Л.31-32. (原本) 出版: <i>Экспедиция Беринга, с.404-406.</i>
I-145	「聖ピョートル号」の航海日誌からの抜粋 [アメリカ海岸への航海に関するもの]	1741年5月24日	中央国立海軍文書館 Φ.913. On.1. Д.50. Л.1-113. (原本と相違ないことを証明された写し)
I-146	シュパンベルグのガルデボリ(С.Гардеболь)への指示書 [日本への航海中、鉱物探査に関するもの]	1742年4月30日 No.239	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.116. Л.85. (発信書類簿)
I-147	シュパンベルグのルチシェフに対する命令 [鉱物探査中ガルデボリの安全確保を求めるもの(要約)]	1742年4月30日	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.116. Л.86. (発信書類簿) 出版: <i>Русская тихоокеанская эпопея, с.458.</i>
I-148	海軍省宛チリコフ報告 [カムチャツカ東海岸の海図作成、ペトロパヴロフスク港における気候および生活条件の長所に関するもの]	1742年4月30日 No.235	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.114. Л.397-400. (原本)
I-149	シュパンベルグのシェリチングへの指示書 [日本への航海中、様々な島の海図作成方法および日本人に対する態度に関するもの]	1742年5月14日 No.285	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.116. Л.96-99. (発信書類簿)
I-150	シュパンベルグのルチシェフに対する命令 [[「ナジェージダ号」航海中のクリル諸島の海図作成に関するもの]	1742年5月29日 No.358	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.116. Л.143об. (発信書類簿)
I-151	日本への航海の中止およびポリシェレツクへの帰還に関するシュパンベルグの発表	1742年6月22日	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.116. Л.316об.-317. (写し)
I-152	シュパンベルグのシェリチングに対する命令 [アムール川とウダ川の水路図作成のためのシェリチング(「ナジェージダ号」)の航海への派遣に関するもの]	1742年6月23日 No.392	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.116. Л.151. (発信書類簿)

I-153	シュパンベルグのガルドボリに対する命令 [鉱物探索のためにアジョールナヤ川 (р.Озерная) 周辺における地形の調査に関する もの]	1742年8月8日 No.406	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.116. Л.155. (発信書類簿)
I-154	海軍省宛チリコフ報告 [探検を続けるために必要な造船と新しい船の 装備および食料の調達、運搬、現地における原 住民からの入手の困難性に関するもの]	1742年10月18日 No.505	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.44. Л.79- 84. (原本)
I-155	海軍省宛ゴロヴィン報告 [チリコフによって送られたアメリカへの航海 に関する情報受信の知らせ]	1742年11月6日 No.1064	中央国立海軍文書館 Ф.230. Оп.1. Д.20. Л.462об.-463. (発信書 類簿)
I-156	海軍省宛ワクセル(С.Ваксель)海軍中尉報告 [ベーリングとのアメリカへの航海に関するも の]	1742年11月15日 No.9	中央国立海軍文書館 Ф.212. Оп.11. Д.794. Л.155-167. (原本) 出版: Ваксель С. Вторая Камчатская экспедиция Витуса Беринга. М., Л., 1940, с.138-151. Golder F.A., Bering's voyages, vol.1, p.270-281.
I-157	元老院宛ステレル(Г.В.Стеллер)科学アカデ ミー助手報告 [[「聖ピョートル号」航海中に行われたアメリカ 北西海岸およびその原住民生活の調査研究に関 するもの]	1742年11月16日	Зап. имп. Академии наук, СПб., 1869, т.15, приложение №1, с.13- 24.
I-158	シュパンベルグ宛オフツイン(Д.Л.Овцын)海軍 中尉書簡 [無人島における水兵の生活およびベーリング 死亡の件 (要約)]	1742年11月25日	中央国立海軍文書館 Ф.230. Оп.1. Д.30. Л.153-154. (原本) 出版: Русская тихоокеанская эпопея, с.223-224.
I-159	海軍省宛シュパンベルグ報告 [アムール川からカムチャツカのボリシェレツ ク要塞までのオホーツク海の海図作成および調 査の継続に関するもの]	1743年3月24日 No.175	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.99. Л.125-126. (発信書類 簿)
I-160	チリコフ宛コロステリョフ(Д.Коростелев)船長 とユーシン(Х.Юшин)航海士の報告 [ウリヤ川の水路図作成および調査に関するも の]	1743年8月8日	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.60. Л.299. (原本と相違ないことを 証明された写し)
I-161	エリザヴェータ女帝宛グワズゴフ測地学者の 依頼 [カムチャツカ探検参加に対して陸軍少尉官の 授与の依頼]	1743年8月24日* *依頼書提出の日 付	中央国立海軍文書館 Ф.216. Оп.1. Д.56. Л.966-967. (原本)

I-162	オホーツク港官房宛シュパンベルグ書簡 [極度の必要性がない限り、コサックおよび商人によるカムチャツカ要塞の訪問を禁ずる必要性の件]	1743年9月7日 No.433	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.99. Л.261об.-262. (発信書類簿)
I-163	シュパンベルグの意見書 [フリトンにより開始されたオホーツクでの造船の完了、及びそのオホーツク南海岸調査のための装備に関するもの]	1743年9月7日* 日付はこの意見書が添付されたシェリチング宛シュパンベルグ命令書によるもの。	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.99. Л.264об.-265. (発信書類簿)
I-164	シュパンベルグ宛フメテフスキー航海士報告 [ツマーナ川(р.Тумана)までのオホーツク東海岸の海図作成に関するもの]	1743年9月12日	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.57. Л.416-417. (原本)
I-165	元老院のチリコフとシュパンベルグへの指示書 [第二次カムチャツカ探検の活動停止に関するもの]	1743年9月25日 No.6268	中央国立海軍文書館 Φ.216. On.1. Д.57. Л.769-770. (原本と相違ないことを証明された写し)

II

Русские экспедиции по изучению северной части Тихого океана в первой половине XVIII в.

【18世紀後半における太平洋の北部の調査を目的とするロシア探検】

史料番号	史料タイトル[副題]	番号・場所・年月日	典拠
II-1	海軍省宛チリコフ大尉報告書(抜粋) [太平洋北部における研究・調査の方針に関するもの]	1746年6月18日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, оп.1, д.48, л.594-597, 599-606. (原本と相違ないことを証明された写し) 出版(抄): Русская тихоокеанская эпопея. Хабаровск, 1979, с. 300-303.
II-2	ポリシェレツク要塞事務局の証明書からの抜粋 [1743-1746年、パーソフ(Е.С.Басов)軍曹が「聖ピョートル号」("Св.Петр")でコマンドル諸島へ航海し、メードヌイ島(О-в Медный)を発見したことに関するもの]	1746年9月13日以降* *日付は史料の内容による。	АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК, д.8, л.112об-114. (写し)
II-3	ポリシェレツク要塞事務局宛ニジネカムチャツク市役所報告書からの抜粋 [ネヴォードチコフ(М.В.Неводчиков)が1745-1747年に平底川船「聖エブドキム号」(шитик "Св.Евдоким")でアリューシャン諸島へ航海し、アリューシャン列島近隣の諸島を発見したことに関するもの]	1747年9月12日	АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК, д.6, л.7об-8. (写し)
II-4	イルクーツク市事務局宛シベリア庁命令 [アリューシャン列島近隣の諸島の海図及び地図作成に関するもの]	1749年6月28日 No. 433	АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК, д.6, л.12. (写し)
II-5	ヤクーツクのノーヴィコフ(С.Новиков)とヴェリーキー・ウスチュグ(Великий Устюг)のバーホフ(И.Бахов)ら商人のエリザヴェータ帝宛書簡 [1746-1749年におけるアナドゥイル川(р. Анадырь)河口よりカムチャッカまでの海路発見及びコマンドル諸島への航海に関する報告]	1750年2月1日以降* *日付は史料の内容による。	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, оп.1, д.72, л.35-38. (原本と相違ないことを証明された写し)

II-6	日本語学習生シャナヌイーキン(П.Шананькин)報告 〔シュパンベルグ(М.П.Шпанберг)探検隊への参加及びクリル列島でのアイヌの生活状況についてのもの〕	1750年5月14日	ЦГАДА (中央国立古文書館) ф.248, оп.113. д.485а, л.48. (原本) 出版: Русская тихоокеанская эпопея, с. 459-460.
II-7	セナート(元老院)会議議事録 〔日本海岸への探検実施に関するシュパンベルグ工兵准尉の提案を対象とする審議〕	1750年6月21日	ЦГАДА (中央国立古文書館) ф.248, оп.113. д.485а, л.26-27. (原本と相違ないことを証明された写し) 出版: Сенатский архив, СПб., 1897, т. XVIII в., с.113.
II-8	セナート(元老院)宛シベリア県知事ミャートルフ(В.А.Мятлев)大尉書簡 〔カムチャッカ探検の再開ならびに、アムール川河口における造船所及び海軍基地の建設に関するもの〕	No.251 1753年6月15日以 降* *日付は史料の内容 による。	ЦГАДА (中央国立古文書館) ЦГАДА ф.248, оп.113. д.485а, л.52-56. (原本) 出版: Русская тихоокеанская эпопея, с. 490-493.
II-9	海軍省宛セナート(元老院)書簡 〔新しい陸地を捜索し、現地住民をロシア国籍に編入することを目的とする、ミャートルフ指導下のカムチャッカ探検再開に関する命令〕	1753年12月28日 No. 394	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.212, оп.10, д.96, л.16-18. (原本)
II-10	セナート(元老院)宛シベリア県知事ソイモノフ(Ф.И.Соймонов)第3等文官書簡 〔準備されているイルクーツク商人ベチュヴィン(И.Бечевин)の太平洋及び北氷洋への航海に関する報告〕	1758年2月24日	ЦГАДА (中央国立古文書館) ф.248, оп.113. д.485а, л.436-441. (原本) 出 版: Русская тихоокеанская эпопея, с. 306-311.
II-11	ポリシェレツク要塞事務局宛ニジネカムチャツク市役所報告書からの抜粋 〔1756-1758年にバシマコフ(П.Башмаков)が「聖ピョートル・聖パヴェル号」("Св.Петр и Павел")でアリューシャン諸島へ航海し、アリューシャン列島近隣の諸島より更に東方にある諸島を発見したことにに関するもの〕	1758年12月7日以 降* *日付は史料の内容 による。	АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК, д.8, л.80об.-82. (写しよりの写し)
II-12	シヌドト(И.Синдт)中尉宛ソイモノフ書簡 〔太平洋での航海に関する指示〕	1761年2月22日* *日付は、1769年 6月17日付のチチ	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.174, оп.1, д.18,

		<p>エーリン (Д.И. Чичерин) 宛 ブレニスネル (Ф.Х. Плениснер) 書簡(報告書)に よる(ЦГАВМФ, ф.216, оп.1, д.77, л.388-395を参照)</p>	<p>л.305. (写し)</p>
II-13	<p>シヌドト宛アナドゥイル指揮官ブレニスネル (Ф.Х.Плениснер) 書簡 [太平洋での航海に関する指示]</p>	<p>1761年6月19日 No. 43</p>	<p>ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.174, оп.1, д.18, л.306-307. (写し)</p>
II-14	<p>ポリシェレツク要塞事務局の証明書からの抜粋 [1757-1761年に、コサックのステュージェンツォフ (И.Студенцов)が「聖カピトン号」 ("Св.Капитон")でアリュウシャン諸島へ航海し、 キスカ島(о-в Кыска)を発見したことに 関するもの]</p>	<p>1761年7月16日* *日付はニジネカム チャツク市役所 への提出日付である。</p>	<p>АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК, д.6, л.149об.-153. (写し)</p>
II-15	<p>セナート(元老院)の命令書 [クリル諸島での狩猟業を許可するもの] 商人・航海士チェレパーノフ(С.Я. Черепанов) の文書 [1759-1762年におけるベーリング島及びアリュ ウシャン列島近隣諸島の海図作成に関するも の]</p>	<p>1761年8月24日 1762年8月3日</p>	<p>ПСЭРИ, т.ХV, № 11315. (『ロシア帝国法令全 集』) АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК, д.6, л.262об.-265. (写し) 出版: Русские открытия в Тихом океане и Северной Америке в XVIII в. М., 1948, с.113-120.</p>
II-16	<p>ポリシェレツク要塞事務局宛コサックのポノマ リョーフ(С.Т.Пономарев)と偵察員グロート フ(С.Г.Глотов)の書簡 [1758-1762年、ポノマリョーフとグロートフが 「聖イウリアン号」("Св.Иулиан")で航海し、ウ ムナーク島(о-в Умнак)及びウナラスカ島 (о-в Уналашка)を発見した上、その現地住民を ロシア国籍に編入したことに関する報告]</p>	<p>1762年9月12日</p>	<p>ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, оп.1, д.74, л.5-12. (写し) 出版(省略され、異文 を有する形で): Шукинский сборник. М., 1906, вып.5, с.150-153, 172-173; Русские открытия в Тихом</p>

			<i>океане и Северной Америке в XVIII-XIX веках. М., 1944, с.23-29.</i>
II-17	ポリシェレツク要塞事務局の文書からの抜粋 〔1760-1762年、プシカリョーフ(Г.Пушкарев)参謀将校が帆船「聖ガヴリール号」("Св.Гавриил")でアリューシャン諸島及びアラスカへ航海したことに關するもの〕	1762年10月13日	АВПР (ロシア外交文書館) <i>ф.РАК,д.8, л.141-143.</i> (写し)
II-18	オホーツク部隊コサック中尉クルキン(Н.Куркин)が集めた情報からの抜粋 〔チオミド(о-ва Диомида(グヴォズデヨフ Гвоздева))島及び北米における自然条件、並びに現地住民の生活と習慣に關するもの〕	1763年8月5日以降* *日付は史料の内容による。	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.172, он.1, д.408, л.58-59.</i> (写し)
II-19	ポリシェレツク要塞事務局の証明書からの抜粋 〔1760-1763年、航海士・偵察員のヴォロビョーフ(А.Воробьев)が「聖イオアンーウスチュジスキー・チュドトヴォーレツ号」("Св.Иоанн-устюжский чудотворец")でクリシー諸島(Крысьи о-ва)へ航海し、クワスニック島(О-в Квасник)を発見したことに關するもの〕	1763年8月13日以降* *日付は史料の内容による。	АВПР (ロシア外交文書館) <i>ф.РАК,д.6, л.202об.-203.</i> (写し)
II-20	カムチャッカのポリシェレツク要塞事務局宛パンコフ(Д.Панков)偵察員書簡 〔1758-1763年、パンコフが「聖ヴラディーミル号」("Св. Владимир")でアリューシャン諸島へ航海し、ウニマク島(о-в Унямак)を発見したことに關するもの〕	1763年9月20日	АВПР (ロシア外交文書館) <i>ф.РАК,д.8, л.129-134.</i> (原本と相違ないことを証明された写しからの写し)
II-21	エカテリーナ二世宛シベリア県知事チチェーリン(Д.И.Чичерин)親衛隊少佐書簡 〔ウムナーク島(О-в Умнак)・ウナラシカ島(О-в Уналашка)の発見及び、その現地住民がロシア国籍に移されたことに關する報告〕	1764年2月11日* *日付は書簡の発送日付である。	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.216, он.1, д.77, л.2-4.</i> (写し) 出版(抄)： <i>Материалы для истории русского флота. СПб., 1856, ч.ХI, с. 104-106</i>
II-22	海軍省宛エカテリーナ二世書簡 〔太平洋において発見された新しい島々の海図作成、及び開発を目的とする探検に關する命令書〕	1764年5月4日* *日付はII-23の内容による。	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.227, он.1, д.21, л.1-2.</i> (原本) 出版： <i>Русская тихоокеанская</i>

II-23	海軍省会議の議事録 〔太平洋において発見された新しい島々の海図作成及び開発のため、クレニツィン (П.К. Креницын) 大尉の下で探検隊を組織することに関するもの〕	1764年5月5日	<i>эпопея, с. 333-334.</i> ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.212, оп.11, д.2111, л.1-2.</i> (原本)
II-24	クレニツィン中尉宛海軍省書簡 〔アリューシャン諸島への探検隊の準備と派遣に関する指示書〕	1764年6月26日 No. 13	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.216, оп.1, д.77, л.399-408.</i> (原本) 出版(抄) : <i>Русская тихоокеанская эпопея, с. 337-343.</i>
II-25	内閣宛エカテリーナ二世書簡 〔太平洋における島々の発見に対し、ニキーフオロフ (И.Никифоров)、スニギリョーフ (И.Снигирев)、プレーニン(И.Буренин)ら商人に、表彰を授与する命令〕	1764年9月21日	ЦГАДА (中央国立古文書館) <i>ф.24, оп.1. д.34, л.9-10.</i> (原本と相違ないことを証明された写しからの写し)
II-26	ニジネカムチャツク市役所宛セリンギノ村商人トルストيوف (А.Толстых) 書簡 〔1760-1764年におけるアリューシャン諸島への航海についての報告〕	1764年9月29日	АВПР (ロシア外交文書館) <i>ф.РАК, д.6, л.236-255.</i> (写し) 出版(抄) : <i>Русские открытия..., 1944, с.29-32.</i>
II-27	エカテリーナ二世宛チチュエリン書簡 〔1760-1764年におけるヤクーツク市商工業者ノーヴィコフ (Е.Новиков) のクリル諸島滞在に関する報告〕	1764年	ЦГАДА (中央国立古文書館) <i>ф.24, оп.1. д.34, л.47.</i> (原本)
II-28	クレニツィン宛海軍省訓令へのチチュエリンの追加書 〔アリューシャン諸島への探検隊の準備と派遣に関するもの〕 ニジネカムチャツク要塞指揮官シマーレフ (Т.И.Шмалев) 准尉宛、航海士・偵察員コロヴァイン (И.Коровин) 書簡 〔1762-1765年におけるコマンドル諸島及び、ウムナーク島・ウナラスカ島への航海に関する報告〕	1765年3月4日 No. 207 1766年7月26日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.216, оп.1, д.77, л.415-424.</i> (原本) АВПР (ロシア外交文書館) <i>ф.РАК, д.20, л.22-49.</i> (写し) 出版 : <i>Русские открытия..., 1948, с.120-146.</i>

II-29	シマーレフ宛グロートフ (С.Г.Глотов) 報告 〔1762-1766年、グロートフのアリューション諸島への航海及びカジャック島 (о-в Кадьяк) の発見に関するもの〕	1766年8月22日	АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК,д.20, л.95об.-116. (写し)
II-30	海軍省宛クレニツイン書簡 〔探検隊の船がオホーツクからカムチャツカへ出発したことにする報告〕	1766年10月10日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, on.1, д.77, л.217. (原本)
II-31	海軍省宛クレニツイン書簡 〔探検隊船の故障についての報告〕	1767年1月18日 No. 21	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, on.1, д.77, л.326. (原本)
II-32	ウスチュグ市 (Устюг) 商人シロフ (В.И.Шилов) が提出したアリューション諸島地図の海軍省による内容紹介	1767年2月5日	АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК,д.8, л.254-257. (写し) 出版: Русские открытия в Тихом океане ..., М., 1948, с.127-177.
II-33	海軍省会議の議事録 〔ベーリングのカムチャツカ探検、及び商人の航海結果に基づく地図作成の仕方に関するもの〕	1767年4月27日* *日付は議事録著名の日付である。	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.212, on.11, д.2111, л.49-51. (原本)
II-34	チチュエリン宛クレニツイン書簡 〔オホーツクから出発した探検隊船のカムチャツカへの到着、及び河川用平底帆船「聖パーヴェル号」("Св. Павел")の帰還に関する報告〕	1767年8月7日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, on.1, д.77, л.342. (原本と相違ないことを証明された写しからの写し)
II-35	海軍省宛クレニツイン書簡 〔ニジネカムチャツク要塞での冬越しの理由及び、航海のための準備に関する報告〕	1768年6月27日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, on.1, д.77, л.360-361. (原本)
II-36	「聖エカテリーナ号」の航海日誌からの抜粋 〔ウナラスカ島の現地人との出会いに関するもの〕	1768年8月21日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.913, on.1, д.116, л.60об. (原本)
II-37	航海士ドゥピン・ポリシヨイ (А.А. Дубин-Большой) 准尉宛クレニツイン書簡 〔アリューション列島とアラスカ半島の現地住民との接し方の原則に関する指示〕	1768年8月22日 No. 304	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, on.1, д.84, л.557. (原本)

II-38	「聖パーヴェル号」艦長レヴァシヨーフ (M.Д. Левашов) 大尉宛航海士ドゥピン・ポリシヨイ 准尉書簡 〔アクタン島 (о-в Акутан) 西岸への航海に関する報告〕	1768年8月23日 No. 123	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, on.1, д.83, л.196-197. (原本)
II-39	クレニツィン指導の探検隊員将校の協議会決定 〔アラスカ半島、カジャック島、ウニマク島の海図作成継続及び、船の越冬場所に関するもの〕	1768年8月31日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, on.1, д.82, л.1408. (原本)
II-40	レヴァシヨーフ宛ドゥピン・ポリシヨイ書簡 〔アラスカ半島への訪問に関する報告〕	1768年8月31日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, on.1, д.83, л.209. (原本)
II-41	レヴァシヨーフ宛航海士シャバーノフ (Я.И. Шабанов) 准尉書簡 〔「聖パーヴェル号」越冬のため、イグノク湾 (Я.И. Шабанов) において入江を探索し、アクタノク島 (о-в Акутанок) 原住民と出逢ったことに関する報告〕	1768年9月17日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, on.1, д.83, л.226. (原本)
II-42	レヴァシヨーフ宛「ボヤルスキー・スイン」 (боярский сын) の小地主サーヴィン (П. Савин) 書簡 〔ウナラスカ島原住民への贈呈品引渡しに関する報告〕	1768年9月27日* *日付は報告書提出の日付である。	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, on.1, д.83, л.227. (原本)
II-43	クレニツィン宛航海士クラシェニヌニコフ (М.Ф. Крашенинников) 准尉書簡 〔アラスカ半島の海岸の調査に関する報告〕	1768年10月29日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, on.1, д.84, л.544. (原本)
II-44	「聖パーヴェル号」日誌からの抜粋 〔アリューシャン諸島の孤児を飢餓死から救ったことに関するもの〕	1769年2月22日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.913, on.1, д.131, л.109. (原本)
II-45	レヴァシヨーフの日記* *「聖パーヴェル号」日誌からの抜粋 〔ウナラスカ島及びその住民についてのもの〕	1769年5月21日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.913, on.1, д.131, л.121-123. (原本)
II-46	〔クリル諸島19番目の島まで行ったコサック中尉イヴァン・チョールヌイ (Иван Черный) の日誌ないし日記〕 〔クリル諸島への航海ルート並びに、そこで見られた島嶼間の距離、現地人の生活などの特徴に関するもの〕	1769年9月25日以降* *イヴァン・チョールヌイのポリシェレツクへの到着日付による。	Полонский А.С. Куриль. СПб., 1871, с. 56-72

II-47	海軍省宛レヴァショーフ書簡 〔クレニツィン大佐の死亡及び、探検終了に関するもの〕	1770年8月5日 No. 125	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.216, оп.1, д.77, л.376. (原本)
II-48	カムチャッカ司令官ベム (М.К. Бем) 少佐宛 イルクーツク県知事ブリーリ (А.И. Бриль) 少将書簡 〔日本との通商関係樹立を目的とするクリル諸島への新たな探検の必要性に関する指示〕	1772年11月28日	АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК, д.25, л.87-88. (原本と相違ないことを証明された写しからの写し)
II-49	商人シェーリホフ (Г.И. Шелихов) とレベデフ・ラーストチキン (П.С. Лебедев-Ласточкин) 宛ポリシェレツク要塞事務局書簡 〔クリル諸島への探検の準備に関する指令〕	1775年3月3日 No. 1	ЦГАДА (中央国立古文書館) ф.7, оп.1. д.2539, л.444-445. (原本と相違ないことを証明された写しからの写し)
II-50	クリル諸島遠隔地探検隊長アンチーピン (И. М. Антипин) 宛ベムの書簡 〔航海の準備と目的に関する指示〕	1775年6月8日	ЦГАДА (中央国立古文書館) ф.7, оп.2. д.2539, л.96-112. (原本と相違ないことをベムが証明した写し) 出版(抄): Русская тихоокеанская эпопея, с. 463-470.
II-51	ポリシェレツク要塞事務局オホーツク港事務所書簡 〔予定されるレベデフ・ラーストチキンのブリガンティン船「聖ナタリヤ号」("Св. Наталия")での、クリル諸島でも遠隔の諸島への航海に関するもの〕	1777年9月2日	АВПР (ロシア外交文書館) ф.Внутренние коллежские дела, 1779 г., д.5, л.33-36. (写し)
II-52	ベトウシコーフ (М. Петушков) 航海士宛レベデフ・ラーストチキン書簡 〔ブリガンティン船「聖ナタリヤ号」のクリル諸島への航海の目的に関する指示〕	1777年 No. 67	АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК, д.32, л.1-4. (原本)
II-53	オホーツク港事務所宛アンチーピン (И.М. Антипин) 書簡 〔1775-1778年におけるクリル諸島滞在に関する報告〕	1778年8月28日 No. 829	ЦГАДА (中央国立古文書館) ф.7, оп.2. д.2539, л.138-139. (原本)
II-54	オホーツク港事務所宛イルクーツク商人シャバールン (Д.Я. Шабалин) 書簡 〔クリル諸島滞在及び日本商人との出会いに関するもの〕	1778年9月4日* No.827 *日付は報告書の	ЦГАДА (中央国立古文書館) ф.7, оп.2. д.2539, л.124-

	する報告]	オホーツク港事務所への提出日付である。	132. (原本)
II-55	クリル諸島・アリューシャン諸島へ出発する商人達宛、イルクーツク県知事ネムツォーフ(Ф.Г. Немцов) 准将指令	1778年9月16日	АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК,д.26, л.170-177. (写し)
II-56	1775-1778年における、アンチーピン(И. Антипин)とオチェレディン(И.Очередин)のクリル諸島航海の際に作成された地図での、クリル諸島の説明	1778年	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.1331, оп.4, д.104. 出版: Атлас географических открытий XVII-XVIII вв. М., 1964, с.106-107.
II-57	セナート(元老院) 検事総長・現役三等文官ヴィヤゼムスキー(А.А. Вяземский) 公爵宛ネムツォーフ書簡 [レベデフ・ラーストチキンの命令によって現物税(ясак)を課されているクリル諸島への、商人の来訪禁止に関するもの]	1779年1月24日 No. 3	ЦГАДА (中央国立古文書館) ф.7, оп.2. д.2539, л.148-150. (原本)
II-58	ペトロパーヴロフスク港事務所宛イズマイロフ(Г. Г. Измайлов) 航海練習生書簡 [クック(Д. Кук) 探検隊によるウナラスカ島への訪問に関する報告]	1779年4月20日 No. 443	АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК,д.34, л.13-14. (写し)
II-59	セナート(元老院) 宛エカテリーナ二世書簡 [ロシア国籍に移ったクリル諸島住民を現物税納入義務から免除する命令]	1779年4月30日	/ПОЗРИ/ ПСЗРИ, 『ロシア帝国法令全集』 т. XX, № 14 867..
II-60	ヴィヤゼムスキー宛鉱山監督局長ソイモノフ(М. Ф. Соймонов) 元老院議員書簡 [クリル諸島への航海の準備及び実施に対する、レベデフ・ラーストチキンへの勲章授与に関するもの]	1779年4月30日	ЦГАДА (中央国立古文書館) ф.7, оп.2. д.2539, л.193. (原本)
II-61	ヴィヤゼムスキー宛カムチャツカ総司令官シマーレフ書簡 [クック探検隊のペトロパーヴロフスク湾訪問に関する報告]	1779年5月5日	АВПР (ロシア外交文書館) ф.Внутренние коллежские дела, р. 8/16, оп. 2/1, 1776-1779 гг., д.4, л.10-18. (写し)
II-62	ヴィヤゼムスキー宛シマーレフ書簡 [クック探検隊のペトロパーヴロフスク湾訪問、	1779年11月1日	АВПР (ロシア外交文書館)

	及びその探検隊への援助に関する報告]		ф.РАК,д.34, л.17-18. (写し)
	タターリノフ (М. Татаринов) 大尉によって作成された、コサック中尉コベレフ (И. Кобелев) 日誌からの抜粋 〔コベレフのヂオミド (グヴォズヂョフ) 諸島への航海に関するもの〕	1779年	ЦГАДА (中央国立古文書館) ф.7, оп.2. д.2539, л.62-64 (原本) 出版: Ефимов А.В. Из истории великих русских географических открытий. М., 1950, с. 264-268; Русская тихоокеанская эпопея, с. 329-332. Копия карты И. Кобелева 1779 г. опубл.: Федорова С. Г. Русское население Аляски и Калифорнии. Конец XVIII в. - 1867 г. М., 1971, рис. 1.
II-63	アンチーピン探検日誌からの抜粋 〔日本人との出会い、及びウルップ島での越冬に関するもの〕	1779年8月27日 - 1780年9月17日	ЦГАДА (中央国立古文書館) ф.7, оп.2. д.2539, л.240 об. - 243, 244 - 248 об., 249 - 253 об., 258 об. - 264, 282 - 284. (原本)
II-64	ポリシェレツク事務局宛アンチーピン書簡 〔1775-1780年における探検隊のクリル諸島滞在に関する報告〕	1780年9月20日 No. 499	ЦГАДА (中央国立古文書館) ф.7, оп.2. д.2539, л.204 - 205. (原本)
II-65	ルィルスク市 (г. Рыльск) 選挙制市会における商人シェーリホフ (Г. И. Шелихов) 報告 〔「北東米会社」の設立目的及びその事業に関するもの〕	1781年11月	АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК,д.879, л.1. (原本)
II-66	海軍省宛エカテリーナ二世書簡 〔ビーリングス (И. И. Биллингс) 大尉の指揮下、北氷洋及び太平洋における新しい陸地発見と調査を目的とする、北東地理・天文学探検を準備するための命令〕	1785年8月8日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.227, оп.1, д.48. л. 32 - 38. (原本) 出版: Г. А. Сарычев. Путешествие по северо-восточной части Сибири, Ледовитому морю и Восточному океану. М., 1952, с. 31 - 35; Русская

			<i>тихоокеанская эпопея,</i> <i>с. 363 - 367.</i>
II-67	ピーリングス宛海軍省書簡 〔北東地理・天文学探検の目的についての指示〕	1785年8月8日以 降* *日付はII-66によ る。	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書 館) <i>ф.214, оп.1, д.1. л.</i> <i>11 - 33.</i> (原本) 出版: <i>Г. А. Сарычев.</i> <i>Путешествие, с. 279 -</i> <i>294.</i>
II-68	海軍省議事録からの抜粋 〔Санクト・петербургからの北東地理・天 文学探検隊派遣に関するもの〕	1785年9月23日 No. 15	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書 館) <i>ф.212, оп.11,</i> <i>д.2563, л. 114 - 115.</i> (写し)
	カジャック島でシェーリホフと彼の会社所属航 海士によって下された決定 〔新しい発見を続けながら、太平洋における事 業及び商業を拡大させるため、新しい航海士と 発見された場所での居住者を募集する必要性に 関するもの〕	1785年12月11日	Архив ЛОИИ АН СССР, <i>ф. 36, 1, № 476,</i> <i>л. 397 - 399.</i> (写し) 出版: <i>Русские</i> <i>открытия., 1948, с.</i> <i>178 - 182.</i>
II-69	〔北東米会社〕主任サモイロフ (К. А. Самойлов) 宛シェーリホフ書簡 〔会社の経営に関する指示〕	1786年5月4日	Архив ЛОИИ АН СССР, <i>ф. 36, 1, № 476,</i> <i>л. 383 - 391.</i> (写し) 出版: <i>Русские</i> <i>открытия., 1948, с.</i> <i>185 - 199.</i>
II-70	ガール (Р. Р. Галл) 大尉宛ピーリングス訓令 〔オホーツクでの造船、その乗組員の募集、探 検隊用食糧の準備に関する指令〕	1786年8月4日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書 館) <i>ф.214, оп.1, д.3, л.</i> <i>17 - 18.</i> (原本)
II-71	商務省長ヴォロンツォフ (А. Р. Воронцов) 宛 ソイモノフ書簡 〔太平洋諸島における毛皮獣猟、及び他国との 通商に関するもの〕	1786年12月22日 以降* *日付はII-72によ る。	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書 館) <i>ф.172, оп.1, д.408,</i> <i>ч. 2, л. 272 - 279.</i> (原本と相違ないことを 証明された写しからの 写し)
II-72	エカテリーナ二世宛ヴォロンツォフ並びに外務 省第二等文官ベズバロートコ (А. А. Безбородко) 伯爵書簡 〔太平洋においてロシア航海士が発見した島々 と陸地に対するロシアの権利及び、それらの発	1786年12月22日 以降* *日付はII-73によ る。	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書 館) <i>ф.172, оп.1, д.408,</i> <i>ч. 2, л. 260 - 267.</i> (写 し)

	見について他の諸国に発表する必要性に関するもの]		出版(抄) : <i>Русская тихоокеанская эпопея, с. 371 - 373; To Siberia and Russian America, p. 321 - 324.</i>
II-73	外務省宛エカテリーナ二世書簡 〔太平洋上でロシア航海士が発見した島々と陸地に対する、ロシアの権利保持に関する命令〕	1786年12月22日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.172, оп.1, д.408, ч. 2, л. 259.</i> (写し)
II-74	海軍省宛エカテリーナ二世書簡 〔ロシア領防衛のため、太平洋への艦隊派遣に関する命令〕	1786年12月22日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.172, оп.1, д.408, ч. 2, л. 258.</i> (写し) 出版: <i>Русская тихоокеанская эпопея, с. 538; To Siberia and Russian America, p. 325.</i>
II-75	第一次世界一周探検隊長ムロフスキー (Г. И. Муловский) 大佐宛海軍省書簡 〔第一次世界探検の目的に関する指示〕	1787年4月17日以降 日付は、太平洋への艦隊の派遣に関するエカテリーナ二世の、海軍省次長チエルヌイシヨーフ伯爵宛に対する命令の日付(1787年4月27日)による。 (ПСЗРИ, т. XXII, № 16530)	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.172, оп.1, д.367, л. 286 - 320.</i> (写し) 出版: <i>Русская тихоокеанская эпопея, с. 539 - 540.</i>
	イルクーツク総督ヤコビ (Л. Ф. де Сегюр) 宛シェーリホフ書簡 〔ロシア人による北米北西部の開発、及びカムチャツカにおける英国東インド会社との通商開始の必要性に関する報告〕	1787年4月19日	<i>Архив ЛОИИ АН СССР, ф. 36, 1, № 476, л. 405 - 410.</i> (写し) 出版: <i>Русские открытия..., 1948, с. 206 - 218.</i>
II-76	在露フランス大使デ・セギュール (Л. Ф. де Сегюр) 伯爵宛世界周航探検隊長ラベルザ (Ж.-Ф. Лаперуза) 大佐書簡 〔ベトロパーヴロフスク港入港に関するもの〕	1787年9月23日	<i>Архив ЛОИИ АН СССР, ф. 39, 1, № 7/634, л.1 - 2.</i> (原本)

	シェーリホフとアメリカ探検家レジアルド (Д. Ледярд) との会見録 [太平洋北部におけるロシア人の事業及び新しい 陸地の発見について]	1787年8月18日以 降 —1787年11 月7日以前	<i>Россия и США: становление отношений. 1765 - 1815. М., 1980, с. 156 - 157. (『露米関係の形成』 pp. 156-157)</i>
	[太平洋航海に関するセーリホフ報告]	1787年5月-11月	<i>Архив ЛОИИ АН СССР, ф. 36, 1, № 476, л. 421 - 485. (写し) 出版: Российского купца Григория Шелихова странствование в 1783 году из Охотска по Восточному океану к американским берегам. СПб., 1791; Русские открытия., 1948, с. 226 - 249.</i>
	エカテリーナ二世宛ヤコビ報告 [太平洋諸島における北東米会社の活動及びそ の支援に関するもの]	1787年11月30日	<i>Русские открытия., 1948, с. 250 - 265.</i>
	エカテリーナ二世宛海軍省次長チェルヌイシヨ フ (И. Г. Чернышев) 伯爵書簡 [世界一周航海のための、ムロヴスキー (Г. И. Муловский) 大佐指導下の艦隊準備に関 する報告]	1787年	<i>ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書 館) ф.172, оп.1, д.367, л. 374 - 391. (写し) 出版: Русская тихоокеанская эпопея, с. 540 - 545.</i>
II-77	チェルヌイシヨフ宛ガール報告 [探検用造船における難点、ミエードヌイー島 (о-в Медный) ・アムチツカ島 (о-в Амчитка) 周辺で難破した英国と日本の水夫達の商用船に よる救助、ベトロパーヴロフスク港におけるフ ランス船滞在に関するもの]	1788年1月28日 No.12	<i>ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書 館) ф.212, оп.11, д.2563, л. 759 - 760.. (原本)</i>
II-78	海軍省宛海軍省史編纂官パッラス (П. С. Паллас) 第6等文官書簡 [18世紀における北氷洋及び太平洋でのロシア 航海史作成を目的とする史料収集の必要性に関 するもの]	1788年2月14日	<i>ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書 館) ф.212, оп.11, д.2119, л. 160 - 162. (自筆)</i>
II-79	セナート (元老院) 命令書 [太平洋の島々を発見したゴリコフとシェーリ ホフに対する金メダル・銀剣授与を求めての、 ゴリコフ・シェーリホフの出願却下に関するも の]	1788年9月12日	<i>ПСЗРИ, т. XXII, № 16709.</i>

II-80	サルイチェフ (Г. А. Сарычев) 大尉宛ビーリングス中佐書簡 〔オホーツクからウリカン川(р.Улькан)河口までオホーツク海海図を作成するよとの命令〕	1788年11月20日 No. 151	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.214, оп.1, д.5, л. 250. (原本)
II-81	ガール旅行日誌からの抜粋 〔プリブイーロフ (Г. Л. Прибылов) 航海士が河川用平底帆船「聖ゲオルギー号」により太平洋で新しい島々を発見した後、オホーツクに到着したことにするもの〕	1789年8月14日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.913, оп.1, д.168, л. 38 об. (原本)
II-82	海軍省宛ビーリングス書簡 〔探検隊がオホーツクから出発した後、「ドープラエ・ナメレニエ号」("Доброе намерение")が故障し、「スラーヴァ・ロシイ号」("Слава России")で探検を続行したことにする報告〕	1789年9月12日 No. 213	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.214, оп.1, д.58, л. 73 об. - 76. (発信書類簿)
II-83	海軍省宛ビーリングス書簡 〔聖イオーナ島 (о-в Св. Ионы) の発見、探検隊将校の昇進、ベトロパーヴロフスクでの越冬予定に於ける報告〕	1789年11月17日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.214, оп.1, д.58, л. 105 - 108. (発信書類簿)
II-84	スミルノイ宛シェーリホフ書簡 〔東北米会社の業績、太平洋における新発見、ロシア航海士によって発見された陸地に対するロシアの権利確保に於けるもの〕	1789年12月10日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.198, оп.1, д.79, л. 1 - 2. (原本)
	エカテリーナ二世宛イルクーツク総督ビーリ (И. А. Пиль) 書簡 〔東北米会社の活動に於ける報告〕	1790年2月13日	Архив ЛОИИ АН СССР, ф. 36, 1, _ * 476, л. 344 - 351. (原本) 出版: Русские открытия, 1948, с. 295 - 304.
II-85	エカテリーナ二世宛ビーリ書簡 〔ロシア領の海岸付近でスウェーデン船が出現する可能性との関係で、カムチャツカ及びロシアの商工企業の安全確保措置に於ける報告〕	1790年2月25日	ЦГАДА (中央国立古文書館) ф.24, оп.1, д.64, ч. 1, л. 140 - 141. (原本) 出版: Русская тихоокеанская эпопея, с. 406 - 408.
II-86	ギレフ (А. Гилев) 測量担当軍曹宛ビーリングス書簡 〔クリル諸島海図作成に於ける命令〕	1790年4月22日 No. 38	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.214, оп.1, д.60, л. 24. (発信書類簿)

II-87	ガウズ (Д. Гауз) 第14等文官宛ビーリングス書簡 〔探検の際、「航海を予定する場所の地形図」を掲載する日誌を作成するよとの命令〕	1790年5月29日 No. 40	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.214, оп.1, д.60, л. 25. (発信書類簿)
II-88	サルイチェフ中佐宛ビーリングス書簡 〔ウナラスカ島の港及び諸湾の海図作成に関するもの〕	1790年6月4日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.214, оп.1, д.5, л. 294. (原本)
II-89	サルイチェフ旅行日誌からの抜粋 〔アリューション諸島の調査研究、ウナラスカ島及びカジャック島の(河川が流入する)深い入江・バブローワヤ湾 (Бобровая губа) の海図作成、現地人との出会いに関するもの〕	1790年5月13日— 6月28日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.913, оп.1, д.171, л. 94 - 104. 107. 108 об. - 117. (原本) 出版 (原本との差異を含む) Сарычев Г. А. Путешествие, с. 133 - 142, 144 - 151. (サルイチェフ『旅行』)
II-90	サルイチェフ宛ビーリングス大佐書簡 〔聖イリヤ島 (о-в Св. Илии) 海図を作成する必要性及び、その現地人に対して好意的態度をとることにするもの〕	1790年7月24日 No. 125	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.214, оп.1, д.5, л. 300. (原本)
II-91	サルイチェフ『北東シベリア・北氷洋・太平洋における旅行』からの抜粋 〔アメリカ沿岸調査とシュガチスカヤ湾 (Шугачской губы) 付近における現地人との出会いに関するもの〕	1790年7月22—25 日	Сарычев Г. А. Путешествие по северо-восточной части Сибири, Ледовитому морю и Восточному океану, М., 1952, с. 156 - 160. (サルイチェフ『北東シベリア・北氷洋・太平洋における旅行』)
II-92	シェーリホフとカルゴポリスク商人バラノフ (А. А. Баранов) との協定 〔北東米会社における協力条件に関するもの〕	1790年8月15日	АВПР (ロシア外交文書館) ф.РАК, д.74, л.1 - 7. (原本)
II-93	ビーリングス宛ギレフ書簡 〔クリル諸島の海図作成に関する報告〕	1790年10月14日 No. 210	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.214, оп.1, д.21, л. 511 - 512. (原本)

II-94	海軍省宛ビーリングス書簡 〔アメリカ北西岸までの航海及び、ペトロパヴロフスク港への帰還に関する報告〕	1790年11月8日 No. 177	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.214, оп.1, д.60, л.69-70.</i> (発信書類簿)
II-95	ヴォロンツォフ宛科学者・旅行家ラクスマン(K. Г. Лаксман) 書簡 〔アムチツカ島周辺で海難にあった日本人の救助、及び対日通商関係の可能性に関するもの〕	1791年2月26日	Архив ЛОИИ АН СССР, <i>ф. 36, 1, № 609, л. 1-3.</i> (原本) 出版: <i>Архив князя Воронцова. Кн. XXIV, М., 1880, с. 187-191</i> (『ヴォロンツォフ公爵の古文書』第24巻)
II-96	ヴォロンツォフ宛ラクスマン書簡 〔「日本の商業」に関するもの〕	1791年2月26日* *日付は、「日本の商業」に関する書簡が続きである史料II-95による。	Архив ЛОИИ АН СССР, <i>ф. 36, 1, № 609, л. 15-19.</i> (原本) 出版: <i>Архив князя Воронцова. с. 191-197</i>
II-97	ガール中佐宛ビーリングス書簡 〔ウナラスカ島航海への出発、及びスウェーデン船と出会った際取るべき予防措置に関する指示〕	1791年3月11日 No. 56	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.214, оп.1, д.23, л.79-80.</i> (原本)
II-98	ガール宛ニジネカムチャツク地方(郡)裁判所書簡 〔アリューション諸島のトイオン(тойоны -ヤクト族族長)に、現地島民と外国船乗組員との接触時の原則に関する命令書を配布するようにとの依頼〕	1791年5月30日 No. 2	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.913, оп.1, д.247, л. 49a.</i> (原本)
II-99	ガール宛ビーリングス書簡 〔ウナラスカ島から聖ラヴレンチ湾(губе Св.Лаврентия)へ航海するための指示〕	1791年7月5日 No. 183	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.214, оп.1, д.23, л.190-191.</i> (原本)
II-100	サルイチェフ旅行日誌からの抜粋 〔アメリカ沿岸海図の作成及び、現地人との出会いに関するもの〕	1791年7月28-31日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.913, оп.1, д.251, л. 147-150.</i> (原本) 出版(原本との差異を含む): <i>Сарычев Г. А.</i>

			<i>Путешествие, с. 179 - 181.</i> (サルイチェフ『旅行』)
II-101	ガールの短い日誌からの抜粋 〔ウナラスカ島滞在、及びアリュेशन諸島のトイオンに対する、現地島民と外国船乗組員との接触時の原則についての命令書配布に関するもの〕	1791年7月31日－8月4日* *日付は日誌による。 (ЦГАВМФ, ф. 913, оп. 1, д. 168, л. 53. を参照)	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.913, оп.1, д.168, л. 53об.</i> (原本)
II-102	サルイチェフ宛ビーリングス書簡 〔サルイチェフへの「スラーヴァ・ロシイ号」の指揮移管に伴い、調査を続行し、ウナラスカ島で越冬準備をするための指示、及びビーリングスのチュコート半島への出発に関する報告〕	1791年8月12日 No. 230	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.214, оп.1, д.5, л. 365 - 370.</i> (原本)
	ビーリングス旅行日誌 〔オホーツクからアリュेशन諸島とアメリカ沿岸への航海、カムチャッカへの帰還、1791年におけるベトロパヴロフスク港からベーリング海峡・聖ラヴレンチ湾への再度の航海に関するもの〕	1789年9月19日－1791年8月14日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.913, оп.1, д.215, л. 1 - 302.</i> (英文からの対訳) 出版(抄) : <i>Этнографические материалы Северо-восточной географической экспедиции 1785-1789. Магадан, 1978, с. 48 - 52.</i> (『1785 - 1789年における北東地理探検隊の民族学資料』)
II-103	「スラーヴァ・ロシイ号」将校の議決 〔霧のためアナドイル湾海図の作成不可能、及び予定される聖マトヴェイ島 (о-в Св. Матвея) への航海に関するもの〕	1791年8月18日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.214, оп.1, д.28, л. 34б.</i> (原本)
II-104	ベズパロートコ宛ヴォロンツォフ書簡 〔海難にあった日本人、及び日本との通商関係の可能性に関するもの〕	1791年8月23日	<i>Архив ЛОИИ АН СССР, ф. 36, I, № 609, л. 36 - 50.</i> (草稿) 出版 : <i>Архив князя Воронцова. с. 197 - 201.</i>
II-105	フジャコフ (О. Худяков) 測量担当軍曹宛サルイチェフ書簡	1791年9月1日 No. 249	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館)

	[ウナラスカ島の海図作成及び、ウムナーク・アクタン・ウニマク諸島の調査に関する指示]		館) <i>ф.214, оп.1, д.61, л. 97-98.</i> (発信書類簿)
II-106	ピーリ宛エカテリーナ二世書簡 [日本への探検に関する命令]	1791年9月13日	<i>ПСЗРИ</i> , (『ロシア帝国法令全集』 <i>т. XXIII, №16 985.</i>
II-107	アリューション諸島人口調査・現物税課税委員会決定 [アンドレアノフ諸島族長への賞与授与に関するもの]	1791年10月7日	<i>ЦГАВМФ</i> (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.214, оп.1, д.29, л. 33.</i> (原本)
II-108	エカテリーナ二世宛ピーリ書簡 [アンドレアノフ諸島住民がロシア国籍を取りたいという依頼に関する報告]	1791年11月5日	<i>ЦГАДА</i> (中央国立古文書館) <i>ф.24, оп.1, д.64, ч. II, л. 66-67.</i> (原本) 出版(抄): <i>Русская тихоокеанская эпопея, с. 393.</i>
II-109	海軍省宛ガール書簡 [ウナラスカでの越冬、及びクリル諸島調査のため「チョールヌイ・アリヨール号」("Черный орел")の準備に関する報告]	1792年7月14日 No. 172	<i>ЦГАДА</i> (中央国立古文書館) <i>ф.24, оп.1, д.67, л. 4-6.</i> (原本) 出版: <i>Русская тихоокеанская эпопея, с. 394-397.</i>
II-110	ピーリ宛ベーリングス書簡 [アリューション諸島における人口調査及び現物税課税の実施に関するもの]	1792年7月15日 No. 184	<i>ЦГАВМФ</i> (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.214, оп.1, д.63, л. 57об. - 59.</i> (発信書類簿)
II-111	海軍省宛ベーリングス書簡 [ベーリング海峡における航海及びチュコト半島の調査に関する報告]	1792年7月31日 No. 23	<i>ЦГАВМФ</i> (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.214, оп.1, д.62, л. 17-21.</i> (発信書類簿)
II-112	日本政府宛日本への探検隊長ラクスマン中尉・航海士ロフツォフ (В. М. Ловцов) 准尉書簡 [アムチツカ島周辺で海難にあった日本人救助、及び日本への探検目的に関するもの]	1792年10月12日	<i>ЦГАВМФ</i> (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.198, оп.1, д.79, л. 4.</i> (写し) 出版: <i>Северный архив. СПб., 1822, ч. I, с. 248-251</i> (『北の古文書館』1822年); <i>Лицей. Периодическое издание И. Мартынова на 1806</i>

			год. СПб., 1806, ч. II, кн. 2, с. 87-90. (『リツエイ』マルツィーノフの刊行物、1806年)
II-113	ラクスマン宛日本役人書簡 〔日本政府宛ラクスマン・ラフツォフ書簡の差戻しに関するもの〕	1793年7月17日* *日付は、書簡がラクスマンに手渡された日付である。	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.198, оп.1, д.79, л. 3об. (写し) 出版: Северный архив, с. 248 (『北の古文書館』1822年); Лицей. Периодическое издание И. Мартынова на 1806 год. (『リツエイ』、1806年)
II-114	ラクスマン宛日本政府書簡 〔日本沿海の航行禁止に関するもの〕	1793年7月17日* *日付は、書簡がラクスマンに手渡された日付である。	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.198, оп.1, д.79, л. 3. (写し) 出版: Архив князя Воронцова, с. 411 - 413; Сношения русских с Япониею, или образы японской дипломатии. - Северный архив. СПб., 1826, ч. 22, л. 212-216 (『北の古文書館』1822年)
II-115	ラクスマン宛日本政府書簡 〔ロシア船の長崎入港許可(一隻に限る)に関するもの〕	1793年7月23日* *日付は、日本政府がこの書類をラクスマンに手渡した日付である (Архив князя Воронцова, с. 414)	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) ф.198, оп.1, д.79, л. 4об. (写し) 出版: Архив князя Воронцова, с. 414.
II-116	ピーリ宛エカテリーナ二世書簡 〔北米開発においてシェーリホフとゴーリコフ(И. И. Голиков)に協力するよとの命令〕	1793年12月31日	ПСЭРИ, (『ロシア帝国法令全集』) т. XXIII, № 17 171.
II-117	エカテリーナ二世宛ピーリ書簡 〔1792-1793年におけるラクスマンとラフツォフ〕	1794年2月28日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館)

	フの日本への航海結果、及び日本との通商関係樹立を目的とする新たな探検の必要性に関するもの]		館) <i>ф.179, оп.1, д. 131, л. 179 - 191.</i> (原本)
	シェーリホフ宛ピーリ書簡 〔アメリカの北西岸及びクリル諸島の開発に関する命令〕	1794年5月11日	АВПР (ロシア外交文書館) <i>ф.РАК, д.108, л. 10 - 23.</i> (原本と相違ないことをピーリが証明した写し) 出版: <i>Русские открытия. 1948, с. 323 - 336.</i>
	北東米会社主任バラノフ宛シェーリホフ・ポレヴォイ (А. Е. Полевой) 書簡 〔社の事業に対する外国介入の防止、及び新事業地域の調査に関する指示〕	1794年7月31日	<i>К истории Российской-американской компании. Красноярск, 1957, с. 52 - 60</i> (『露米会社の歴史』1957年); <i>Русская тихоокеанская эпопея, с. 413 - 416.</i>
II-118	北東米会社主任バラノフ宛シェーリホフ書簡 〔アラスカ開発計画、北米会社の設立、ウルップ島において「徐々にロシアの慣習づけ」をすることにに関するもの〕	1794年8月9日	АВПР (ロシア外交文書館) <i>ф.РАК, д.108, л.24 - 35.</i> (写し) 出版: <i>Русские открытия. 1948, с. 336 - 353; To Siberia and Russian America, pp. 433 - 449.</i>
	ピーリ宛シェーリホフ書簡 〔北米開発の継続、北米会社の設立、太平洋における通商拡大の必要性に関する報告〕	1794年11月18日	АВПР (ロシア外交文書館) <i>ф.РАК, д.108, л. 36 - 45.</i> (原本) 出版: <i>Русские открытия. 1948, с. 353 - 369.</i>
II-119	エカテリーナ二世宛海軍省報告書からの抜粋 〔ビーリングス探検の結果に関するもの〕	1794年11月	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф.179, оп.1, д. 131, л. 63 - 66.</i> (原本)
II-120	シェーリホフ宛スミルノイ (И. Т. Смирной) 書簡 〔北米とクリル諸島におけるロシア移住地及び、「聖シメオン号」(“Св. Симеон”)の聖パーヴェル・ゲオールギー諸島 (о-ва Св. Павла и Георгия) への派遣に関するもの〕	1795年1月1日	АВПР (ロシア外交文書館) <i>ф.РАК, д.792, л. 1 - 2.</i> (原本)

II-121	セナート（元老院）宛ビーリ書簡 〔オホーツク及び北米での造船における難点〕	1795年4月18日	АВПР (ロシア外交文書館) <i>ф. Внутренние коллежские дела, р. 8/16, оп. 2/1, 1785, 1795 гг., д. 6, л. 5-6.</i> (写し)
II-122	検事総長サモイロフ（А. Н. Самойлов）伯爵宛 エカテリーナ二世書簡 〔1792-1793年に行われた日本探検の参加者に 賞を授与すること、及びイルクーツクで講師と して働いていた日本人に報酬を支払うことに 関する命令〕	1795年8月10日	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф. 179, оп. 1, д. 131, л. 202.</i> (写し)
II-123	ビーリングス宛海軍省書簡 〔北東地理・天文学探検の活動を停止し、その 書類を海軍省文書館に提出し、その参加者に賞 を与え、水夫達を元々属した組織に戻すこと に関する命令〕	1795年9月7日 No. 21	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф. 214, оп. 1, д. 34, л. 22-23.</i> (原本)
II-124	検事総長クラキーン（А. Б. Куракин）公爵宛 イルクーツク県総督ナゲリ（Л. Т. Нагель）第3 等文官書簡 〔ムイリニコフ（Н. П. Мильников）指導下の 商社設立及び、シェーリホフ・ゴーリコフの会 社とその合併に関する報告〕	1797年7月22日 No. 17.388/2569	ЦГИА (中央歴史文書館) <i>ф. 1374, оп. 1, д. 236, л. 23-24.</i> (原本)
II-125	パーヴェル一世宛商務省書簡 〔「米会社」設立の合理性に関する報告〕	1797年9月9日 No. 311	ЦГИА (中央歴史文書館) <i>ф. 1374, оп. 1, д. 236, л. 49-50.</i> (原本)
II-126	シェーリホフ（Н. А. Шелихова）書簡 〔米会社業績の説明〕	1798年10月7日以 降 *日付は内容によ る。	ЦГАВМФ (ロシア国立海軍文書館) <i>ф. 198, оп. 1, д. 79, л. 233-238.</i> (写し) 出版(抄) : <i>Россия и США: становление отношений, 1765-1815.</i> М., 1980, с. 208-209 (『1765-1815年における露米関係の樹立』1980年); <i>To Siberia and Russian America, pp. 505-509.</i>

III

Российско-Американская компания и изучение тихоокеанского севера 1799-1815

(III)

「1799-1815年における「露米会社」と太平洋の北部の調査」
古文書集

史料番号	史料タイトル【副題】	番号・場所・年月日	典拠
III-1	パーヴェル一世の元老院に対する「露米会社」の設立に関する命令	No.29-a ペテルゴフ 1799年7月8日	ПСЗРИ, т. XXV, С.699. (『ロシア帝国法令全集』)
III-2	設立される会社の規定	No.29-b ペテルゴフ 1799年7月8日	ПСЗРИ, т. XXV, С.700-703. (『ロシア帝国法令全集』)
III-3	設立される会社の特典	No.29-c ペテルゴフ 1799年7月8日	ПСЗРИ, т. XXV, С.703-704. (『ロシア帝国法令全集』)
III-4	海軍省副総裁クセリョフ(Г.Г.Кушелев)伯爵・提督宛、ブハーリン(И.Н.Бухарин)海軍大尉報告書からの抜粋 [クリル列島、アリューシャン列島及び東北アメリカにおける「露米会社」の移住地の件]	No.94 キレンスク 1800年1月28日	ロシア国立海軍文書館 Ф.198. Оп.1. Д.59. Л.124-125. (原本)
III-5	ウナラスカ島(о-в Уналашка)支配人ラジオーノフ(Ф.Я.Родионов)宛、北アメリカにおけるロシア移住地の総支配人バラノフ(А.А.Баранов)書簡 [シッハ(Ситха)での要塞建設の件]	1800年5月14日	Тихменев П. Историческое обозрение... (『歴史解説…』) с.130-138.
III-6	パーヴェル一世の元老院に対する命令 [イルクーツクからサンクトペテルブルグへの「露米会社」本部の移動の件]	1800年10月19日	『ロシア帝国法令全集』 第26巻、348頁
III-7	オボリヤニノフ(П.Х.Обольянинов)元老院検事総長宛、イルクーツク軍事県知事レッツァノ(Б.Б.Лещано)歩兵大将書簡 [船の建設と整備のため「露米会社」オホーツク支局への援助の件]	イルクーツク 1800年10月24日	ロシア国立海軍文書館 Ф.198. Оп.1. Д.70. Л.169-170. (原本と相違ないことを証明された写し)
III-8	「露米会社」代表レザノフ(Н.П.Резанов)元老院第1局長宛、元老院命令 [列島と北アメリカの海岸における航海及び様々な事業のための雇用条件に関するもの]	No.3794 1801年2月16日	ロシア国立歴史文書館 Ф.13. Оп.1. Д.146. Л.45-46. (原本と相違ないことを証明された写し)
III-9	クセリョフ(Г.Г.Кушелев)宛、バツレ(И.П.Балле)海軍主計大将報告 [「露米会社」のため海上専門家の任命の件]	1801年4月15日	ロシア国立海軍文書館 Ф.198. Оп.1. Д.49. Л.146. (原本)

Ⅲ-10	パーヴェルー世宛、ブハーリン(И.Н.Бухарин)報告書 [カムチャツカ半島及びオホーツク海における事情に関するもの]	No.3 オホーツク 1801年6月23日	ロシア国立海軍文書館 Φ.227. On.1. Д.72. Л.50. (原本)
Ⅲ-11	アレクサンドルー世宛ブハーリン海軍中佐報告書 [カムチャツカの防衛強化策及び在カムチャツカ部隊への食糧補給措置の件]	No.13 オホーツク 1801年8月31日	ロシア国立海軍文書館 Φ.204. On.1. Д.31. Л.4-5. (原本)
Ⅲ-12	アレクサンドルー世宛ブハーリン報告書 [オホーツク地方における事情及び「露米会社」との関係の件]	No.312 オホーツク 1801年8月31日	ロシア国立海軍文書館 Φ.204. On.1. Д.31. Л.6-7. (原本)
Ⅲ-13	クルゼンシテルン(И.Ф.Крузенштерн)海軍大尉宛リシャンスキー(Ю.Ф.Лисянский)海軍大尉書簡からの抜粋 [世界一周探検の新しい計画の件]	サンクトペテルブルグ [1802年] *1月25日 *年代は内容による	ロシア国立海軍文書館 Φ.14. On.1. Д.224. Л.48-49. (手稿)
Ⅲ-14	海軍省副総裁モルドヴィーノフ(Н.С.Мордвинов)提督宛サルイチヨフ(Г.А.Сарычев)海軍大尉報告 [オホーツク地方におけるロシアの商業の状況及び日露経済関係の発展の行方に関するもの]	1802年2月18日	ロシア国立海軍文書館 Φ. 204. On.1. Д.96. Л.5-8. (原本) 出版: 「歴史古文書館」1962年, No.6, c.86-89
Ⅲ-15	「露米会社」本部のバラーノフ(А.А.Баранов)に対する指示書 [ロシア領アメリカにおいて国際政治の変化に応ずる行動に関するもの]	No.190 サンクトペテルブルグ 1802年4月18日	National Archives. Washington.RE261.Records of the Russian-American Company,1802-1867.Vol.1; Microfilm II, roll 1. 出版: Alaska History Research Project Documents Relative to the History College(Alaska)1936-1938. Vol.1-15; The Russian American Colonies:A Documentary Record,1798-1867.Portland,1989.P.27-32
Ⅲ-16	クルゼンシテルン宛リシャンスキー書簡 [世界一周探検参加への同意の件]	[1802年] *7月26日 *年代は内容による	ロシア国立海軍文書館 Φ.14. On.1. Д.224. Л.52-53. (手稿)
Ⅲ-17	アレクサンドルー世宛「露米会社」本部報告 [ロシア領アメリカにおけるバラーノフの活動に関するもの]	1802年7月29日	『ロシア外交』(ВПР) 第1巻,266-269頁
Ⅲ-18	モルドヴィーノフ宛クルゼンシテルン書簡 [スペイン航海者のマラスピナ(А.Маласпина)の運命及び世界一周旅行のための準備の件]	No.1 レーヴェリ 1802年8月17日	ロシア国立海軍文書館 Φ.204. On.1. Д.55. Л.1-2. (手稿)
Ⅲ-19	クルゼンシテルン宛リシャンスキー書簡 [世界一周探検のため船舶購入を目的とするハンプルクへの旅行準備の件]	サンクトペテルブルグ 1802年8月* *年代は内容による	ロシア国立海軍文書館 Φ.14. On.1. Д.224. Л.56-57. (手稿)

Ⅲ-20	クルゼンシテルン宛リシャンスキー書簡からの抜粋 [世界一周航海の準備の件]	サンクトペテルブルグ [1802] *年9月1日* *年代は内容による	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. On.1. Д.224. Л.62-63. (手稿)
Ⅲ-21	クルゼンシテルン宛レザノフ書簡 [世界一周探検の1803年7月までの延長及び「露米会社」の株式販売の件]	ヴィボルグ 1802年9月2日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. On.1. Д.231. Л.18-19. (手稿)
Ⅲ-22	モルドヴィーノフ宛クルゼンシテルン書簡 [世界一周航海の準備過程の件]	No.2 レーヴェリ 1802年9月3日	ロシア国立海軍文書館 Ф.204. On.1. Д.55. Л.3. (手稿)
Ⅲ-23	海軍大臣モルドヴィーノフ提督宛クルゼンシテルン書簡 [ロムベルグ(Ф.И.Ромберг)海軍中尉とベリングスガウゼン(Ф.Ф.Беллинсгаузен)海軍少尉の推薦]	No.2 レーヴェリ 1802年10月5日 ガムブルグ	ロシア国立海軍文書館 Ф.204. On.1. Д.55. Л.8. (手稿)
Ⅲ-24	クルゼンシテルン宛リシャンスキー書簡 (抜粋) [世界一周探検のための船をドイツで購入することの不可能性の件]	1802年10月13日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. On.1. Д.224. Л.58-59. (手稿)
Ⅲ-25	クルゼンシテルン宛「露米会社」社長アラロフ(Е.Н.Деларов)書簡 [世界一周探検のための書籍と道具の購入の件]	サンクトペテルブルグ 1802年10月24日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. On.1. Д.212. Л.154-155. (原本)
Ⅲ-26	科学アカデミー会議の議事録からの抜粋 [イノホードツェフ(П.Б.Иноходцев)科学アカデミー会員の、クルゼンシテルン大尉に対する、陸上での天文学上の問題に関する情報提供協力の件] 仏語 (翻訳)	1802年10月24日	「帝室科学アカデミー会議の議事録 (1725-1803年)」, サンクトペテルブルグ, 1911年, 第4巻. c.1032-1033 (フランス語)
Ⅲ-27	アレクサンドル一世宛商務大臣ルミャンツェフ(Н.П.Румянцев)伯爵報告 [日本との貿易の重要性と展望に関するもの]	No.371 ペテルブルグ 1803年2月20日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.2. Л.10-13. (原本) 出版: 『ロシアの対外政策』, 第1巻, c.387-389
Ⅲ-28	アレクサンドル一世宛ルミャンツェフ報告 [広東における貿易の発展による利益に関するもの]	No.372 ペテルブルグ 1803年2月20日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.2. Л.8-9. (原本) 出版: 『ロシアの対外政策』, 第1巻, c.386
Ⅲ-29	ドミトリエフ(И.И.Дмитриев)元三等文官宛レザノフ現役侍従書簡 [予定の世界一周探検及び日本への使節の件]	サンクトペテルブルグ 1803年4月3日以前* *日付はレザノフ宛ドミトリエフ返簡による (『キリル・フレブニコフの「観察記」に	「ロシアの文書館」 1866年, No.9, c.1331-1334

		おけるロシア領アメリカ」,176頁を参照)	
Ⅲ-30	他の艦船から「露米会社」の「ネヴァ号」(«Нева»)と「ナジェージダ号」(«Надежда»)に派遣された将兵のリスト(クルゼンシテルン大尉による)	No.276 1803年4月18日	ロシア国立海軍文書館 Ф.203. Оп.1. Д.49. Л.7-8. (原本)
Ⅲ-31	「露米会社」本部のクルゼンシテルンへの指示書 [[「ネヴァ号」(«Нева»)と「ナジェージダ号」(«Надежда»)の世界一周探検の目的と目標に関するもの]	1803年5月29日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Оп.1. Д.273. Л.1-15. (原本)
Ⅲ-32	アレクサンドルー世勅書 [レザノフの対日使節团团長としての任命に関するもの]	1803年6月10日	「ロシアの昔」 1825年6月,c.128
Ⅲ-33	クルゼンシテルン宛ルミヤンツェフ(Н.П.Румянцев)書簡 [ロシア人の世界一周探検により太平洋上において可能な発見]	No.1653 1803年6月13日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Оп.1. Д.233. Л.45-48. (原本) 出版:「遠洋航海にあたっての様々な時期におけるロシア艦長への指令全集」サンクトペテルブルグ,1859年,1-3頁
Ⅲ-34	セヴァスチヤノフ科学アカデミー会員(А.Ф.Севастьянов)によって作成された指示書 [第一次世界一周航海にあたり自然地理学的な観察方法に関するもの]	1803年6月21日以前* *日付はⅢ-35による	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.29. Л.20-40. (写し)
Ⅲ-35	レザノフ宛ノボシールツェフ(Н.Н.Новосильцев)科学アカデミー総長書簡 [科学アカデミーによってとられている第一次世界一周探検準備のための措置の件]	No.52 サンクトペテルブルグ 1803年6月21日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.29. Л.1-2. (原本)
Ⅲ-36	ダヴィドフ(Г.И.Давыдов)海軍少尉が書いた「露米会社」籍の「聖エリザヴェータ号」(«Св.Елизавета»)でのアメリカ旅行記述からの抜粋	1802年8月29日- 1803年6月25日	「2回にわたるフヴォストフ(Хвостов)とダヴィドフのアメリカへの旅行記述(後者による作成)」第1章,c.140-257
Ⅲ-37	科学アカデミー会議の議事録からの抜粋 [レザノフの科学アカデミー名誉会員としての加入承認](フランス語) 対訳付き	1802年10月24日	「帝室科学アカデミー会議の議事録(1725-1803年)」,サンクトペテルブルグ,1911年,第4巻,c.1091-1092 (フランス語)
Ⅲ-38	日本皇帝宛アレクサンドルー世書簡 [日露間での貿易発展と友好関係の樹立の提案]	サンクトペテルブルグ 1803年6月30日 (7月12日)	『ロシア外交』第1巻, c.474-475
Ⅲ-39	クルゼンシテルン宛レザノフ書簡 [世界一周探検団に対する軍事船旗使用許可の]	1803年7月2日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Оп.1. Д.231. Л.23-

	件]		24. (手稿)
Ⅲ-40	ルミャンツェフのレザノフへの指示書 [日本への外交使節の指導に関するもの]	サンクトペテルブルグ 1803年7月10日	ロシア国立海軍文書館 Ф.19. Он.4. Д.496. Л.122-123. (写し)
Ⅲ-41	ルミャンツェフのレザノフへの指示書 [レザノフのロシア領アメリカへの航海に関するもの]	No.4 1803年7月10日* *アレクサンドル一世による署名の日付	ロシア帝国外交文書館 Ф.14. Он.1. Д.277. Л.10. (写し) 出版: 『ロシア外交』 第1巻,c.491-497
Ⅲ-42	ロシア世界一周探検団に対して、ウォーレン(J.B.Warren) 在露イギリス特命全権大使によって交付された証明書 [全てのイギリスの領土において、ロシア世界一周探検隊に協力するための依頼書] (英語) 対訳付き	サンクトペテルブルグ 1803年7月20日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Он.1. Д.277. Л.10. (原本)
Ⅲ-43	ルミャンツェフ宛クルゼンシテルン書簡 [世界一周に出航する「ネヴァ号」「ナジェージダ号」で海軍旗を掲げる必要性の件]	1803年7月26日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.10. Л.1-2. (原本)
Ⅲ-44	海軍次官チチャゴフ(П.В.Чичагов)海軍中將宛 ハヌイコフ(П.И.Ханыков)クロンシタット港最高司令官書簡 [[「ネヴァ号」と「ナジェージダ号」のクロンシタット港からの出航の件]	クロンシタット 1803年7月26日	ロシア国立海軍文書館 Ф.203. Он.1. Д.49. Л.15. (原本)
Ⅲ-45	チチャゴフ宛クルゼンシテルン報告書 [コペンハーゲンへ無事到着の件]	コペンハーゲン港 1803年8月6日	ロシア国立海軍文書館 Ф.203. Он.1. Д.49. Л.16-17. (手稿)
Ⅲ-46	科学アカデミー会議の議事録からの抜粋 [自然研究者ラングスドルフ(Г.И.Лангсдорф)の世界一周航海への参加に関するもの] (仏語) 対訳付き	1803年9月17日	『帝室科学アカデミー会議の議事録 (1725-1803年)』,サンクトペテルブルグ,1911年,第4巻. c.1106-1108 (フランス語)
Ⅲ-47	レザノフのバラノフ(А.А.Баранов)への指示書 [ノヴォアルハンゲリスク市における「ネヴァ号」出迎え準備に関するもの]	ブラジル セントエカテリーナ島 1803年12月25日 (1804年1月6日)	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.45. Л.79(об) 06-83. (発信書類簿)
Ⅲ-48	レザノフのリシャンスキーへの指示書 [リシャンスキーのカジャック(Кадьяк)での活動に関するもの]	ブラジル セントエカテリーナ島 1803年12月25日 (1804年1月6日)	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.37. Л.85(об) -87. (発信書類簿)
Ⅲ-49	バラノフに対するレザノフの補足指令 [「露米会社」領土の国境の確定とその領土開発の件]	ブラジル セントエカテリーナ島 1804年1月12日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.37. Л.103. (発信書類簿)

		(同24日)	
Ⅲ-50	クルゼンシテルン宛レザノフ書簡 [次回の航海コースの件]	No.203 「ナジェージダ号」 1803年4月1(13) 日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Он.1. Д.231. Л.40-41. (手稿)
Ⅲ-51	アレクサンドル一世宛レザノフ報告 [ブラジルからカムチャツカまでの「ナジェージダ号」の航海及び日本へ出発する前のカムチャツカでの活動(事業)に関するもの]	ベトロパーヴロフ スク港,カムチャツカ 1804年8月16日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.37. Л.146-153. (発信書類簿)
Ⅲ-52	バスターツキー(В.Я.Башуцкий)宛レザノフの書簡 [探検を好調に続けるためのベトロパーヴロフスクへの食糧郵送の依頼]	No.235 ベトロパーヴロフ スク港 1804年8月16日	ロシア国立海軍文書館 Ф.203. Он.1. Д.155. Л.22-23. (原本と相違ないことを証明された写し)
Ⅲ-53	「露米会社」本部宛クルゼンシテルン報告書 [3本マスト船「ナジェージダ号」がカムチャツカに到着した件]	1804年8月* *日付はクルゼンシテルン報告書の発信による(ロシア国立海軍文書館, Ф.166. Он.1. Д.478. Л.22-23.を参照)	ロシア国立海軍文書館 Ф.203. Он.1. Д.155. Л.2. (原本と相違ないことを証明された写し)
Ⅲ-54	レザノフ宛クルゼンシテルン書簡 [カムチャツカでの「悩み苦しむ人を世話する家」の建設のために「ナジェージダ号」の乗組員からの寄付の件]	1804年8月	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Он.1. Д.255. А.127-128. (草稿)
Ⅲ-55	クルゼンシテルン宛レザノフ書簡 [日本側との外交交渉時、将兵の行動に関する指令]	No.268 「ナジェージダ号」 帆走中 1804年9月20日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Он.1. Д.231. А.53-54. (手稿)
Ⅲ-56	レザノフによって作成された、日本へのロシア使節団のための質問とそれに対する回答のリスト	1804年9月20日以前* *日付はⅢ-55による	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Он.1. Д.274. Л.1-3. (手稿)
Ⅲ-57	チチャゴフ(П.В.Чичагов)宛バスターツキー(В.Я.Башуцкий)報告書 [ロシア使節団が日本から帰国するのにあたり、3本マスト船「ナジェージダ号」への支援艦準備の件]	No.1765 オホーツク港 1804年9月27日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Он.1. Д.3962. Л.1-2. (原本)
Ⅲ-58	レザノフ帝室現役侍従長のカムチャツカから日本への旅行記述からの抜粋	1804年8月-10月* *出来事の日付による	РОРИВ. F.IV. Л.1-30 (写し)
Ⅲ-59	リシャンスキーによる3本マスト船「ネヴァ号」のシツハでの滞在についての回想録	1804年8月15日-11月9日* *出来事の日付による	リシャンスキー『1803-1806年における「ネヴァ号」での世界一周旅行』, 111-123頁

Ⅲ-60	ルミヤンツェフ(Н.П.Румянцев)宛「露米会社」本部報告書 [「露米会社」に与えられた事業のための人材雇用に関する特典の改正と具体化の必要性の件]	No.846 サンクトペテルブルグ 1804年12月16日	ロシア国立歴史文書館 Ф.13. Оп.1. Д.155. Л.12-13. (原本)
Ⅲ-61	日本政府宛レザノフのメモランダム [貿易関係樹立に対する日本側の拒否に関連して]	1805年3月23日以前* *1805年3月23日に行われた幕府代表遠山金四郎とレザノフの面晤の日付による	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.31. П.37. Л.286-287. (写し)
Ⅲ-62	クルゼンシテルン宛レザノフ書簡 [日本皇帝より使節団及び「ナジェーシダ号」将校への贈呈品の件]	No.299 メガサキ(長崎) 1805年3月28日* *1803年と記載されているが間違い	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Оп.1. Д.231. Л.21. (手稿)
Ⅲ-63	クルゼンシテルン宛レザノフ書簡 [日本からカムチャツカへの航海可能なコースの件]	No.300 メガサキ(長崎) 1805年3月28日* *1803年と記載されているが間違い	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Оп.1. Д.231. Л.22. (手稿)
Ⅲ-64	アレクサンドルー世宛「露米会社」本部報告書 [1802-1803年度における会社の利益および在庫商品と不渡手形による株式発行の件]	No.2169 1805年3月31日	ロシア国立歴史文書館 Ф.13. Оп.1. Д.194. Л.1-2. (原本)
Ⅲ-65	レザノフ宛アレクサンドルー世書簡 [カムチャツカにおけるレザノフの活動および次のアメリカ開発計画の奨励]	1805年4月28日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.37. Л.251. (原本と相違ないことを証明された写し)
Ⅲ-66	レザノフ宛ルミヤンツェフ書簡 [ロシア領アメリカにおけるレザノフの活動の是認]	1805年4月29日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Оп.1. Д.284. Л.1-3. (写し)
Ⅲ-67	クルゼンシテルン宛海軍次官チチャゴフ(П.В.Чичагов)海軍中将書簡 [探検が成功して無事終了することへの願い]	No.790 サンクトペテルブルグ 1805年4月29日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Оп.1. Д.241. Л.102-103. (原本)
Ⅲ-68	クルゼンシテルン宛レザノフ書簡 [サハリン島海図作成の継続の指令]	「ナジェーシダ号」航海中 1805年5月14日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.37. Л.217-218. (発信書類簿)

Ⅲ-69	「露米会社」本部宛クルゼンシテルン書簡 [日本からカムチャツカへの帰国および次の探検計画に関する報告]	聖ピョートル・パーヴェル港 1805年6月3(15)日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Оп.1. Д.280. Л.5-6. (原本) 出版: <i>Исторический архив</i> (『歴史文書館』), 1962. №6. С.98.
Ⅲ-70	クルゼンシテルン宛レザノフ書簡 [サハリン島の海図作成および世界一周探検の終了にあたり次の措置に関する指令]	1805年6月6日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.37. Л.233-235. (発信書類簿)
Ⅲ-71	クルゼンシテルン宛レザノフ書簡 [世界一周探検の指揮権移管の件]	No.361 カムチャツカ 聖ピョートル・パーヴェル港 1805年6月6日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Оп.1. Д.231. Л.67. (原本、フランス語からの翻訳)
Ⅲ-72	ルミャンツェフ宛クルゼンシテルン書簡 [日本の西海岸とサハリンの海図作成の件]	1805年6月11日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.37. Л.307-308. (写し)
Ⅲ-73	商務大臣ゴロヴキン(Ю.А.Головкин)伯爵宛アレクサンドルー世書簡からの抜粋 [「露米会社」と中国間の商業発展措置に関する指令]	Санкт-Петербург 1805年4月29日	<i>Из Бумаг графа Ю.А.Головкина. СПб., 1904. С.13-15.</i> (『ゴロヴキン伯爵の書類』1904)
Ⅲ-74	ラツマノフ(М.И.Ратманов)の日記 [3本マスト船「ナジェージダ号」の航海中、クリル列島とサハリンの探検の件]	1805年4月6日-7月14日* *日付は内容による	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Д.149. Л.1-56. (原本)
Ⅲ-75	レザノフの「露米会社」本部への報告からの抜粋 [アリュエーション列島への航海の件]	Остров Уналашка селение Согласие (ウナラスカ島ソグラシエ村) 1805年7月18日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.37. Л.279-286. (発信書類簿)
Ⅲ-76	クルゼンシテルン宛フォッス(Ф.Фосс)市民顧問書簡 [世界一周探検の指導者に対する勲章授与の件]	オホーツク港 1805年7月22日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Оп.1. Д.238. Л.56. (原本)
Ⅲ-77	「露米会社」カジヤック支店宛レザノフ書簡 [ロシア領アメリカの住民調査施行の指示]	カジヤック パヴロフスカヤ港 1805年8月6日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.37. Л.295-296. (発信書類簿)
Ⅲ-78	バラノフ(А.А.Баранов)宛レザノフ書簡 [ノヴォアルハンゲリスクでの造船に関する指示]	バラノフ島 ノヴォ・アルハンゲリスク港 1805年8月27日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.37. Л.322об.-323. (発信書類簿)

Ⅲ-79	フヴォストフ中尉(Н.А.Хвостов)とダヴィドフ少尉(Г.И.Давыдов)宛レザノフ書簡 [次の探検のための造船に関する指令]	No.475 バラーノフ島 ノヴォ・アルハンゲリスク港 1805年8月29日	ロシア国立海軍文書館 Ф.212. Оп.11. Д.2944. Л.77-78. (原本)
Ⅲ-80	レザノフとアメリカ商人デ・ヴルフ(Дж.д'Вульф)との間の契約 [「露米会社」による「ユノーナ号」の購入の件]	ノヴォ・アルハンゲリスク港 1805年9月24日 (10月6日)	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.37. Л.340-343. (発信書類簿)
Ⅲ-81	造船技師のポポフ(Попов)とコリューキン(Корюкин)宛レザノフ書簡 [ノヴォ・アルハンゲリスクでの造船所の建設およびその造船所での次の点検のための造船に関する命令]	1805年10月13日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.37. Л.349. (発信書類簿)
Ⅲ-82	シェメリン(Ф.И.Шемелин)「露米会社」代表の「露米会社」本部への報告抜粋 [広東における商売条件の件]	広東 1805年12月21日	ВПР.Т.3. С.17-22.
Ⅲ-83	ルミャンツェフ宛「露米会社」本部書簡 [イギリス人マクメイステル(А.Макмейстер)の会社に対する不満の件]	No.132 サンクトペテルブルグ 1806年2月8日	ロシア国立歴史文書館 Ф.13. Оп.1. Д.250. Л.23-25. (原本)
Ⅲ-84	削除		
Ⅲ-85	アレクサンドル一世宛レザノフ書簡 [カジャックでの滞在に関する報告]	アメリカ北西海岸 ノヴォ・アルハンゲリスク港(旧ノルフォルク・ズンド) 1806年2月15日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.33. Л.81-82. (原本)
Ⅲ-86	中国裁判所宛セナト(元老院)書簡 [「露米会社」所有の「ネヴァ号」と「ナジェーシダ号」による広東への訪問の件]	1806年5月15日	ВПР.Т.3. С.175-177.
Ⅲ-87	アレクサンドル一世宛レザノフ書簡 [北部アメリカにおけるスペイン植民地との貿易発展の件]	ノヴォ・アルハンゲリスク港 1806年6月17日 (29日)	ВПР.Т.3. С.208-209.
Ⅲ-88	ルミャンツェフ宛レザノフ書簡 [カリフォルニアへの旅行(「ユノーナ号」)に関する報告(抜粋)]	ノヴォ・アルハンゲリスク 1806年6月17日 (29日) 秘密文書	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.34. Л.20-62. (原本) 出版: Россия и США: становление отношений... (『ロシアとアメリカ合衆国: 外交関係の樹立』) С.287-291.

Ⅲ-89	チチャゴフ(П.В.Чичагов)宛ノヴォシールツェフ(Н.Н.Новосильцев)の書簡 [カムチャツカとクリル列島の海図作成のために派遣された探検団に対する援助の依頼]	No.227 1806年7月4日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Он.1. Д.2459. Л.1. (原本)
Ⅲ-90	造船技師コリューキンの「露米会社」本部への報告からの抜粋 [1本マスト船「アヴォーシ号」("Авось")の造船の件]	1806年7月以降* *日付は内容による	ロシア帝国外交文書館 Ф. РАК. Д.1041. Л.1-2. (草稿)
Ⅲ-91	フヴォストフ秘密探検団長宛レザノフ書簡 [クリル列島とサハリンへの航海に関する指示]	No.592 「ユノーナ号」太平洋帆走中 1806年8月8日 秘密文書	ロシア国立海軍文書館 Ф.212. Он.11. Д.2944. Л.38-41. (原本と相違ないことを証明された写し)
Ⅲ-92	世界一周航海から「ネヴァ号」で帰国した将校、下士官、水兵のリスト	1806年9月11日	ロシア国立海軍文書館 Ф.212. Он.11. Д.2929. Л.3-4. (原本)
Ⅲ-93	「ナジェージダ号」による世界一周航海から帰国後、除隊されるべき水兵のリスト	1806年9月12日* *日付は添付書類による ロシア国立海軍文書館Ф.212. Он.11. Д.2929. Л.6.を参照。	ロシア国立海軍文書館 Ф.212. Он.1. Д.2929. Л.7. (原本と相違ないことを証明された写し)
Ⅲ-94	「ネヴァ号」艦長フヴォストフ中尉宛レザノフ書簡 [アメリカへの航海に関する指示]	No.609 オホーツク港 1806年9月24日	ロシア国立海軍文書館 Ф.212. Он.11. Д.2944. Л.42. (原本と相違ないことを証明された写し)
Ⅲ-95	サハリンのアニワ湾にある村落の村長に対するフヴォストフ書簡	1806年10月12日	Северный архив (『北部の文書館』) 1826. Ч.22. С.221.
Ⅲ-96	レザノフ宛ルミャンツェフ書簡 [日本、北米、スペインとの貿易発展の将来性の件]	サンクトペテルブルグ 1806年10月13日	ロシア帝国外交文書館 Ф. Гл. архив, 1-7, 1802. Д.1. П.31. Л.246-250, 252. (原本)
Ⅲ-97	ルミャンツェフ宛元老院書簡 [「露米会社」旗の柄の承認の件]	1806年10月19日	ロシア国立歴史文書館 Ф.13. Он.1. Д.304. Л.2. (原本)
Ⅲ-98	「露米会社」に依存するアメリカ諸民族の事業と生活についての最新情報	1806年11月8日	ロシア国立海軍文書館 Ф.13. Он.2. Д.1243. Л.2-9. (原本)

Ⅲ-99	探検終了後、クルゼンシテルン海軍中佐によって提出された地図・図画に関する海軍省会議の議事録からの抜粋	1806年11月16日	ロシア国立海軍文書館 Ф.215. Он.1. Д.1113. Л.34. (写し)
Ⅲ-100	ルミャンツェフ宛リシャンスキー海軍大尉書簡 [ロシア領アメリカの原住民の生活改善の件]	1806年12月20日	ロシア国立歴史文書館 Ф.13. Он.2. Д.1243. Л.38-41. (自筆)
Ⅲ-101	「露米会社」本部長ブルダコフ(М.М.Булдаков)宛レザノフの最期の手紙	1807年1月24-26日	РГДА (ロシア国立文書館) Ф.1605 (Коллекция Г.В.Юдина). Д.273. Л.1-2.
Ⅲ-102	チチャゴフ宛ダヴィドフ書簡 [秘密探検参加に関する報告]	1807年4月29日	ロシア国立海軍文書館 Ф.212. Он.11. Д.2944. Л.34-35. (原本)
Ⅲ-103	「ディアナ号」船長ゴロヴニン海軍中尉宛海軍省書簡 [クロンシタットからオホーツクまで航海にあたる指令]	1807年5月16日* *日付は添付書類による。ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Он.1. Д.909. Л.61. を参照。	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Он.1. Д.909. Л.62-77. (発信書類の写し)
Ⅲ-104	チチャゴフ宛ルミャンツェフ書簡 [北部アメリカにある村落警備支援の依頼]	No.1015 1807年5月18日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Он.1. Д.909. Л.79-80. (原本)
Ⅲ-105	アレクサンドル一世宛チチャゴフ書簡 [世界一周のため「ディアナ号」の準備に関する報告]	1807年5月22日	ロシア国立海軍文書館 Ф.227. Он.1. Д.100. Л.14-15.(原本と相違ないことを証明された写し)
Ⅲ-106	1807年にダヴィドフ海軍少尉を艦長に行われた「アヴォシ号」のアメリカへの旅行の日記からの抜粋	1807年4月15日-5月27日* *出来事の日付による	РОРНБ. (ロシア国民図書館原稿部) Ф.550 (ОСРК). Q.IV. Л.1-14. (原本)
Ⅲ-107	チチャゴフ宛ゴロヴニン書簡 [3本マスト船「ディアナ号」による世界一周航海のための指令補足の件]	クロンシタット 1807年6月30日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Он.1. Д.909. Л.94-95. (手稿)
Ⅲ-108	ゴロヴニン宛アレクサンドル一世命令 [世界一周航海への出航命令]	サンクトペテルブルグ 1807年7月10日	ロシア国立海軍文書館 Ф.227. Он.1. Д.100. Л.28-31. (写し)
Ⅲ-109	チチャゴフ宛ルミャンツェフ書簡 [[「ディアナ号」のアメリカの北西海岸付近での巡航に関する「露米会社」の依頼の件]	No.1375 1807年7月16日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Он.1. Д.909. Л.126. (原本)
Ⅲ-110	ルミャンツェフ宛コセレフ少将(П.И.Кошелев)書簡 [[「露米会社」の荷物を積載したイギリスの「エクリプス号」("Эклипс")のペトロパーヴフスクへの到着に関する報告]	No.1843 ニジネカムチャツク 1807年8月1日	ロシア国立歴史文書館 Ф.13. Он.1. Д.391. Л.3a. (原本)

Ⅲ-111	アレクサンドル一世宛「露米会社」報告 [船の進行およびヤクターツキー湾(Якутатский залив)の海岸にあるロシアの村落の事情の件(要約)]	1807年10月28日- 11月9日	<i>ВПР.Т.4. С.105-106.</i>
Ⅲ-112	英国海軍省の艦隊長、港長、村長および海軍省官吏に対する命令書 [[「ディアナ号」で航海に出航するゴロヴニンへ要請があれば協力に応じることに關するもの]	1807年11月	ロシア国立海軍文書館 <i>Ф.166. Оп.1. Д.909. Л.161.</i> (発信書類の写し)
Ⅲ-113	海軍省宛ゴロヴニン書簡 [[「ディアナ号」によるポーツマスからブラジルまでの航海の無事に関する報告]	No.2 1808年12月10日 ブラジル海岸付近 セントエカテリーナ島	ロシア国立海軍文書館 <i>Ф.212. Оп.11. Д.2702. Л.177.</i> (原本)
Ⅲ-114	アレクサンドル一世宛ブルダコフ「露米会社」本部長報告 [対カリフォルニア貿易発展の将来性の件(要約)]	1808年1月28日 (2月9日)	<i>ВПР.Т.4. С.163-164.</i>
Ⅲ-115	アレクサンドル一世宛ルミャンツェフ書簡 [ロシア内全ての大都市における「露米会社」による職人・事業員の雇用許可の依頼]	1808年3月13日以前* *日付は書類のもの。	ロシア国立歴史文書館 <i>Ф.13. Оп.1. Д.373. Л.15-16.</i> (原本)
Ⅲ-116	アレクサンドル一世宛「露米会社」報告 [[「露米会社」によって設立された村落における住民割当ての件]	1808年5月12日	ロシア帝国外交文書館 <i>Ф.РАК. Д.194. Л.1-2.</i> (原本)
Ⅲ-117	サンクトペテルブルグ在住アメリカ合衆国総領事ギャリス(Л.Гаррис)宛ルミャンツェフ書簡 [ロシア領アメリカ領土におけるアメリカ人による武器密売の件]	1808年5月17日 (29日)	<i>Россия и США: становление отношений...</i> (『ロシアとアメリカ合衆国：外交関係の樹立』) <i>С.323-324.</i>
Ⅲ-118	バラノフと「メルクリー号("Меркурий")」のエイルス(Дж.Эйрс)船長との間で結ばれた契約 [[「遠い」アメリカ海岸における事業の条件に関するもの]	カジヤック島 聖パーヴェル港	<i>Россия и США: становление отношений...</i> (『ロシアとアメリカ合衆国：外交関係の樹立』) <i>С.324-326.</i>
Ⅲ-119	アレクサンドル一世宛ルミャンツェフ書簡 [ロシア領アメリカ領土開発の件]	1808年5月22日* *日付は書類のもの。	ロシア帝国外交文書館 <i>Ф.РАК. Д.194. Л.9-10.</i> (原本) 出版： <i>ВПР.Т.4. С.270-271.</i>
Ⅲ-120	チチャゴフ宛海軍省上申書 [フヴォストフとダヴィドフによって作成された日本地図およびノートをプハーリンから請求する必要性の件]	No.1564 1808年5月27日	ロシア国立海軍文書館 <i>Ф.166. Оп.1. Д.2459. Л.4.</i> (原本)

Ⅲ-121	アレクサンドル一世の外務省に対する命令 〔フィラデルフィアおよびボストンにおける領事館の設立に関するもの〕	サンクトペテルブルグ 1808年6月8日	ロシア帝国外交文書館 Ф.Административные дела. I-1. 1808. Д.1. Л.131. (原本) 出版：Россия и США: становление отношений... (『ロシアとアメリカ合衆国：外交関係の樹立』) С.327-328.
Ⅲ-122	アレクサンドル一世宛「露米会社」本部報告 〔日本との貿易発展およびサハリン開発の必要性の件〕	No.421 1808年7月2日	ロシア帝国外交文書館 Ф.РАК. Д.195. Л.1-4. (写し)
Ⅲ-123	アレクサンドル一世宛ルミャンツェフ書簡 〔「露米会社」の計画により、サハリンへの移住問題に対する早急な解決の依頼〕	1808年7月17日* *Ⅲ-122を参照。	ロシア帝国外交文書館 Ф.РАК. Д.195. Л.5-6. (原本)
Ⅲ-124	内務大臣宛商務大臣書簡 〔「露米会社」が取得したサハリン島における村落設立の許可の証明書〕	No.23 207a 1808年8月9日	ПСЗРИ. Т. XL: Общее приложение к томам ПСЗРИ. С.55. (『ロシア帝国法令全集』)
Ⅲ-125	海軍大臣チチャゴフ提督宛ルミャンツェフ外務大臣書簡 〔サハリンにおける「露米会社」の村落設置の件〕	No.1818 1808年8月9日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Оп.1. Д.137. Л.1. (原本)
Ⅲ-126	フィラデルフィアにおけるロシア総領事ダシコフ(А.Я.Дашков)宛外務省指示書 〔アメリカにおける「露米会社」の利益保護に関する指令(要約)〕	サンクトペテルブルグ 1808年8月17日	ВПРТ.4. С.326-329.
Ⅲ-127	クスコフ(И.А.Кусков)宛バラノフ指示書 〔デフク海峡(пролив Дефука)からカリフォルニアまでのアメリカ海岸の調査に関するもの〕	ノヴォ・アルハンゲリ스크 1808年10月14日	Россия и США: становление отношений... (『ロシアとアメリカ合衆国：外交関係の樹立』) С.344-347.
Ⅲ-128	ルミャンツェフ宛シベリヤ総督ベステル(И.Б.Пестель)書簡 〔アツタ島(о-в Атта)住民のロシア国籍への変更の件〕	No.604 サンクトペテルブルグ 1809年6月8日	ロシア国立歴史文書館 Ф.13. Оп.1. Д.435. Л.1. (原本)
Ⅲ-129	バラノフ宛クスコフ書簡 〔事業団体のボデガ湾(залив Бодэга)滞在に関する報告〕	ノヴォ・アルハンゲリ스크 1809年10月5日	ОРРГБ.ОИДР. (ロシア国立図書館原稿部、歴史部) Акты. П.32. Д.15. Л.1-2. (草稿)
Ⅲ-130	ルミャンツェフ宛ダシコフ書簡 〔ロシア領アメリカにおける村落の権利保護に関する報告(要約)〕	No.9 1809年11月3日	ВПРТ.5. С.285-287.

Ⅲ-131	ルミャンツェフ宛ブルダコフ(М.М.Булдаков)書簡 [事業者のスロボッチコフ(С.Слободчиков)のカリフォルニア及びハワイ諸島の調査における業績]	No.9281 1809年12月2日	ロシア国立歴史文書館 Ф.13. Оп.1. Д.453. Л.16. (原本)
Ⅲ-132	チチャゴフ宛ゴロヴニン書簡 [[「ディアナ号」]のペトロパーヴロフスク滞在および1810年における航海計画に関する報告]	No.48 聖ピョートル・パーヴェル港 1809年12月24日	ロシア国立歴史文書館 Ф.13. Оп.1. Д.453. Л.2. (原本)
Ⅲ-133	ルミャンツェフ宛ゴロヴニン大尉書簡 [[「ディアナ号」]によるアメリカまでの航海の許可の依頼]	1810年5月11日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Оп.1. Д.910. Л.27-28. (原本と相違ないことを証明された写し)
Ⅲ-134	海軍省宛海軍大臣デ・トラヴェルセ(И.И. де Траверсе)提督書簡 [[「ディアナ号」]の将校への勲章授与の件]	No.502 1810年6月27日	ロシア国立海軍文書館 Ф.277. Оп.1. Д.106. Л.76. (原本)
Ⅲ-135	デ・トラヴェルセ宛海軍省書簡 [クリル諸島海図作成をゴロヴニンに委任する件]	No.2001 1810年6月28日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Оп.1. Д.2498. Л.1-4. (原本)
Ⅲ-136	アレクサンドル一世の命令 [ゴロヴニンへの勲章(орден Св. Владимира 4-й степени)授与に関するもの]	Санкт-Петербург 1810年6月29日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Оп.1. Д.909. Л.239. (写し)
Ⅲ-137	アレクサンドル一世の命令 [リコルド(П.И.Рикорд)大尉への勲章(орден Св. Владимира 4-й степени)授与に関するもの]	Санкт-Петербург 1810年6月29日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Оп.1. Д.909. Л.240. (写し)
Ⅲ-138	ルミャンツェフ宛ペステル書簡 [クリル諸島およびアリューシャン諸島の住民に対する現物税(ясаk)課税の件]	1810年8月18日	ロシア国立歴史文書館 Ф.13. Оп.1. Д.435. Л.9-10. (原本)
Ⅲ-139	デ・トラヴェルセ宛ゴロヴニン報告 [[「ディアナ号」]によるアメリカの北西海岸への航海に関するもの]	No.82 カムチャツカのペトロパーヴロフスク港 1810年9月16日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Оп.1. Д.2498. Л.22-24. (原本)
Ⅲ-140	デ・トラヴェルセ宛コゾダヴレフ(О.П.Козодавлев)内務大臣書簡 [ゴロヴニンの探検に協力したカムチャツカ住民への賞状授与の件]	No.1323 Санкт-Петербург 1810年10月8日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Оп.1. Д.910. Л.20. (原本)

Ⅲ-141	ゴロヴニン宛海軍省指令 [クリル諸島およびシャントル諸島の海図作成に関するもの]	1810年10月24日* *日付は添付書類による。ロシア国立海軍文書館 Ф.166. On.1. Д.2498. Л.21.を参照。	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. On.1. Д.2498. Л.12-18. (原本と相違ないことを証明された写し)
Ⅲ-142	デ・トラヴェルセ宛ベステル報告 [「ディアナ号」のペトロパヴロフスク港からアメリカ北西海岸への出航の件]	No.1733 サンクトペテルブルグ 1810年11月8日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. On.1. Д.910. Л.25. (原本)
Ⅲ-143	デ・トラヴェルセ宛コゾダウレフ書簡 [ガゲメイステル(Л.А.Гагемейстер)海軍中尉が指導する探検隊のロシア領アメリカ領土への無事到着の件]	No.13 サンクトペテルブルグ 1811年1月16日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. On.1. Д.198. Л.1. (原本)
Ⅲ-144	海軍大臣宛ガゲメイステル報告 [「ネヴァ号」乗組員のオホーツクからペテルブルグへの陸路帰国に関するもの]	1811年1月18日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. On.1. Д.198. Л.5. (手稿)
Ⅲ-145	デ・トラヴェルセ宛海軍省書簡 [アメリカ北西海岸の海図作成をゴロヴニンに委任する件]	No.135 1811年1月20日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. On.1. Д.2498. Л.26-27. (原本)
Ⅲ-146	海軍省宛デ・トラヴェルセ書簡 [ガゲメイステル指揮の探検参加者昇進の件]	No.33 1811年2月3日	ロシア国立海軍文書館 Ф.227. On.1. Д.108. Л.77. (原本)
Ⅲ-147	デ・トラヴェルセ宛コゾダウレフ書簡 [「露米会社」の村落の安全保障措置の件]	No.159 1811年6月30日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. On.1. Д.910. Л.56-57. (原本)
Ⅲ-148	オホーツク港長ミニツキー(М.И.Миницкий)中佐宛「ディアナ号」船長リコルド大尉報告 [国後訪問に関するもの]	1811年8月2日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. On.1. Д.2498. Л.36-39. (原本と相違ないことを証明された写し)
Ⅲ-149	フレブニコフ航海士回想記からの抜粋 [日本人による「ディアナ号」乗組員の捕虜に関するもの]	1811年3月-8月* *年代は出来事の日付による。	РОРНЕ. (ロシア国民図書館原稿部) Ф.1000. On.2. Д.1487. Л.1-6 (手稿)
Ⅲ-150	「露米会社」とアメリカの毛皮商社との協定(要約)	サンクトペテルブルグ 1812年4月20日 (5月2日)	ВПР.Т.4. С.385-388.

Ⅲ-151	デ・トラヴェルセ宛ベステル書簡 [クリル諸島海図作成および日本に捕虜された ゴロヴニンの解放の協力を目的とした「ディア ナ号」出航の件]	No.1255 サンクトペテルブ ルグ 1812年7月5日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. On.1. Д.2498. Л.48-49. (原本)
Ⅲ-152	アレクサンドルー世宛「露米会社」本部報告 [フリゲート「ディアナ号」の事故の件]	No.421 1812年8月27日	ロシア帝国外交文書館 Ф.РАК. Д.217. Л.1. (原本と相違ないことを 証明された写し)
Ⅲ-153	アレクサンドルー世宛カムチャツカ要塞司令官 ベトロフスキー(И.Г.Петровский)陸軍少尉報告 [北米商業船のカムチャツカへの到着に関する もの]	No.5 ニジネカムチャツ ク 1812年12月9日	РГВИА (ロシア国立軍 事史文書館) Ф.1. On. 1. Д.2999. Л.8-10. (原本)
Ⅲ-154	アレクサンドルー世宛「露米会社」本部報告 [[「ネヴァ号」のシツハ島までの航海に関するも の]	No.524 1812年12月10日	ロシア帝国外交文書館 Ф.РАК. Д.220. Л.1. (写し)
Ⅲ-155	海軍省宛「露米会社」本部報告 [世界一周航海のため「スヴォーロフ号」 ("Суворов")の準備完了に関するもの]	No.377 1813年9月8日	ロシア国立海軍文書館 Ф.212. On.1. Д.926. Л.1. (原本)
Ⅲ-156	「スヴォーロフ号」乗組員のリスト	1813年9月8日以 前* *日付はⅢ-155に よる	ロシア国立海軍文書館 Ф.212. On.1. Д.926. Л.27. (原本)
Ⅲ-157	松前奉行服部貞勝教諭書 [ゴロヴニンと他の「ディアナ号」乗組員の解 放に関するもの]	1813年9月26日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. On.1. Д.2498. Л.157. (写し)
Ⅲ-158	アレクサンドルー世宛「露米会社」本部報告 [[「スヴォーロフ号」による第三次世界一周探検 の準備に関するもの]	No.448 サンクトペテルブ ルグ 1813年10月10日	ロシア帝国外交文書館 Ф.РАК. Д.244. Л.7. (原本)
Ⅲ-159	ルミャンツェフ宛「露米会社」本部報告 [[「露米会社」のスペインとの通商関係に関する もの(要約)]	No.204 1814年5月15日 (27日)	ВПР.Т.7. С.695-697.
Ⅲ-160	表彰授与に推薦された「ディアナ号」将兵のリ スト	1814年7月28日	ロシア国立海軍文書館 Ф.227. On.1. Д.114. Л.87-89. (原本)

Ⅲ-161	クルゼンシテルン海軍大佐宛ゴロヴニン海軍中佐書簡 [日本からの帰国の件]	サントペテルブルグ 1814年8月11日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Он.1. Д.210. Л.27-28. (手稿)
Ⅲ-162	海軍省宛テ・トラヴェルセ書簡 [新たな航海探検のための参加者募集の件]	No.834 1814年10月19日	ロシア国立海軍文書館 Ф.227. Он.1. Д.114. Л.154. (原本)
Ⅲ-163	テ・トラヴェルセ宛ベステル書簡 [イルクーツク文官県知事による対日交渉の試みの失敗の件]	No.7 サントペテルブルグ 1815年1月3日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Он.1. Д.2498. Л.171-172. (原本)
Ⅲ-164	テ・トラヴェルセの海軍省への提案 [コツェブ(О.Е.Коцебу)中尉の指導下で世界一周航海に出航するブリッグ船「リュウリック号」("Рюрик")で軍用船旗の掲揚許可の件]	No.473 1815年3月26日	ロシア国立海軍文書館 Ф.212. Он.1. Д.964. Л.1. (原本)
Ⅲ-165	大臣委員会会議の議事録からの抜粋 [「リュウリック号」に対する軍用船旗の掲揚許可の件]	1815年5月18日	ロシア国立海軍文書館 Ф.212. Он.1. Д.964. Л.6-9. (原本と相違ないことを証明された写し)
Ⅲ-166	コツェブ宛クルゼンシテルン書簡 [アメリカ北西海岸の調査に関する指令]	1815年7月15日	ロシア国立海軍文書館 Ф.14. Д.104. Л.1-11. (原本)
Ⅲ-167	アメリカ北西海岸付近における航海中「露米会社」の「スヴォーロフ号」において作成させたウニコフスキー(С.Я.Унковский)中尉の航海日記からの抜粋	1814年11月11日- 1815年8月5日* *出来事の日付による。	ロシア国立海軍文書館 Ф.1152. Д.2. Л.1-79. (原本)
Ⅲ-168	テ・トラヴェルセ宛リコルド中佐報告 [クリル諸島付近における「ディアナ号」航海地図の作成完了の件]	No.801 1815年10月26日	ロシア国立海軍文書館 Ф.166. Он.1. Д.2498. Л.182. (原本)